参考資料　別冊

仙南地域広域景観マスタープラン

令和２年１２月

宮　城　県

目　次

序　章

１．計画策定の背景と目的 １
２．景観と人々の活動 ２
３．本計画の位置づけ ２
（１）計画の体系 ２
（２）仙南地域広域景観マスタープラン ３
（３）仙南地域広域景観計画（景観法に基づき県が策定する） ３
（４）各市町独自の景観計画（各市町が景観行政団体移行後に策定する） ３

第１章　景観の特性と課題

１．仙南地域の景観の素地と概況 ６
（１）仙南地域の概況整理 ６
（２）仙南地域の景観概況 ８
２．広域的観点から見る仙南地域の景観特性 ３７
（１）特性１　蔵王連峰を中心に広がる雄大かつ象徴的な自然景観 ３８
（２）特性２　仙南の風土とともに生きる人々の営みがつくり出す景観 ４０
（３）特性３　水陸交通の要衝を担った歴史性を継承する都市・町場の景観 ４２
３．景観形成に係る課題 ４４
（１）景観形成のための３つの視点 ４４
（２）仙南地域における景観形成に係る課題 ４５

第２章　景観形成に係る基本理念と方針

１．基本理念 ４８
２．基本方針 ４９
（１）「まもる」ための基本方針 ４９
（２）「つくる」ための基本方針 ５０
（３）「育てる」ための基本方針 ５１
３．仙南地域の景観構造 ５２
（１）仙南地域における広域景観のイメージ ５２
（２）仙南地域の広域景観の構造 ５３
４．ゾーン別の景観形成方針 ５５
（１）蔵王・阿武隈山地ゾーン ５５
（２）丘陵地景観ゾーン ５７
（３）田園景観ゾーン ５９
（４）歴史的な都市・町場 ６１
（５）ネットワーク ６３

第３章　重点的な取組

１．景観重点区域における景観形成に向けて..... ６５
（１）景観重点区域について..... ６５
２．景観重点区域の選定..... ６６
（１）仙南地域において景観特性を代表するエリアの抽出..... ６６
（２）景観重点区域..... ７２

第４章　今後の進め方について

１．県と市町の役割分担の考え方..... ８１

序　章

１．計画策定の背景と目的

自然，人々の生活，歴史・文化等が調和し形成される美しい景観は，私たちに潤いのある快適な生活環境を与えます。また，より良い景観は，地域の歴史と文化により培われてきた風格及び個性であり，私たちに地域への誇りと愛着を抱かせます。こうした景観は地域住民の共有の資産であり，現在及び将来の住民がその恩恵を享受できるよう，その保全・形成を図らなければなりません。

一方，美しい景観は観光や地域間の交流の促進に大きな役割を担い，地域の活性化に資する面もあります。近年，人口減少が進む中，地域経済の活性化のために観光の振興が叫ばれるようになりました。国が，平成２８年３月に策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」では,「観光資源の魅力を極め, 地方創生の礎に」の視点の下，景観づくりを通じて観光の振興を図ることとされています。

平成１６年６月に制定された景観法では，地方自治体が景観行政団体となり，景観づくりの方針や基準を景観計画として定め，一定の方向性の下，地域の景観づくりを担っていくこととしています。本県においては，平成２４年３月に「宮城県美しい景観の形成に関する基本的な方針」を定め，その中で，住民に最も身近な基礎自治体である市町村が景観計画を策定し，景観づくりに向けて中心的な役割を担うものとし，県は市町村の景観づくりをより一層進めやすくするための支援や先導を行いながら，景観形成に取り組んでまいりました。

宮城県の南部に位置する仙南地域には，蔵王連峰や阿武隈山地等の山岳及び阿武隈川や白石川等の河川の雄大な自然を中心に魅力的な景観（観光資源）が広がっています。山や川などの大地とともにある景観は，自治体の枠を超えた広がりのある景観であると同時に，“仙南地域らしさ”を支える象徴的な景観でもあります。仙南地域では，このような素晴らしい景観を活かして従来から観光客の誘客に取り組んできており，また，最近は移住やワーケーションなど都市から地方へ人の流れが見直されていることも踏まえると，首都圏からのアクセスも良い仙南地域は観光誘客にとどまらない可能性も有しています。

このような視点を持ち，地域で景観づくりに取り組むことで，居住環境の向上や交流人口の拡大のみならず，関係人口創出にもつながり，ひいては，地域活力の維持や地域産業の振興など, 多岐にわたる効果が期待されます。そのためには，仙南地域が一体となって取り組むことが求められ，広域的な観点から景観形成の方向性を共有し，広域的な施策の連携を図ることにより，より効果的に景観づくりを進めることができると考えます。

仙南地域広域景観マスタープラン（以下,「本計画」という。）では，仙南地域の景観を“一体的な景観”と捉えて，“仙南地域らしさ”を醸し出す景観特性を整理し，景観形成における共有すべき方針を定めた上で各市町が連携して景観づくりに取り組むことにより，広域全体としての相乗効果を育み，ひいては仙南地域の活性化に資することを目的とします。

２．景観と人々の活動

景観は，その地域が持つ固有の自然環境と，その上に時間をかけて展開されてきた人々の営みや歴史文化の積み重ねの表れです。良好な景観とは，地域の自然，歴史，文化等と人々の生活，経済活動が調和し，多様な生物の生息が可能となる環境であることをも包括した，快適で魅力的な環境であると言い換えることができます。

そのため，より良い景観を形成していくことは，そこに住む人々の生活を豊かにしていくことに繋がります。その実現には，そこに住む人々が地域の姿や地域らしさについて，景観を通して考え，具体的な取組につなげていくことが重要です。

３．本計画の位置づけ

景観は，自然環境と人々の営み，歴史文化の積み重ねによって形成されるものであり，景観形成に当たっては，広域的な視点を持って取り組むことが重要です。同時に，景観は地域独自の特性によって形成されるものでもあるため，地域を知り，寄り添い，地元と協働で景観の魅力を認識し，高めていくことも求められます。このような，地域特有の景観の形成は，SDGs に掲げる目標である「住み続けられるまちづくり」に沿うものとして，新・宮城の将来ビジョン（2021～2030）においても推進していくこととしております。

そのため，県が中心となって広域的な方針等を示し，市町がより地域に密着した魅力的な景観を発掘し，その魅力を高めていくなど，県と市町が役割分担をしながら連携して景観形成を図ることが求められます。

そこで，仙南地域では，広域的に共有すべき景観形成の方針として「広域景観マスタープラン」を定めた上で，広域的観点から景観法に基づく行為制限を必要と考える地域を対象に，景観法に基づく「景観計画」を定めるものとします。

この役割分担を踏まえ，本計画の体系を整理するとともに，県と各市町それぞれが策定する計画について整理します。

（１）計画の体系

本計画は，「宮城県美しい景観の形成に関する基本的な方針」に掲げる「まもる」，「つくる」，「育てる」の基本目標の下，県が仙南地域の市町と連携して，景観づくりの取組を推進するための共通の理念と方針を「仙南地域広域景観マスタープラン」として定めるものです。

また，本計画に基づき広域的観点から重点的かつ具体的に景観形成を図るため，景観法に基づく「仙南地域広域景観計画」を別途策定することにより，実効性を持った景観形成の取組を進めることとします。さらに，より地域に密着したきめ細かな景観形成の取組を推進するに当たっては，各市町が景観行政団体となり，本計画を踏まえ，「仙南地域広域景観計画」に基づく取組をベースとして，地域独自の景観計画に磨き上げていくこととなります。

（２）仙南地域広域景観マスタープラン

平成２８年３月に改正された「景観法運用指針」では，地形，自然，歴史，文化等という観点で同一の特徴を有している地域を単位として，複数の自治体間にわたる広域的な景観の形成について，各自治体の取組が支障なく整合的に行われるよう，目指す景観の目標像を共有しながら景観計画を策定するための「広域的な景観の形成のためのマスタープラン」を作成する手法が示されました。

これを踏まえ，本計画は，仙南地域における広域的な景観の特性を明らかにするとともに，地域の人々が共通の理念の下，仙南地域全体として共有すべき景観づくりの方針を示すものとして策定するものです。また，地域住民・事業者・行政の間において，地域らしさを担う魅力的な景観について認識の共有化を図るためのものです。

（３）仙南地域広域景観計画（景観法に基づき県が策定する）

「仙南地域広域景観計画」とは，本計画において広域的な観点から景観形成上重要な地域のうち，景観法に基づく具体的な景観形成の取組が必要な地域を対象に，景観計画区域，良好な景観の形成に関する方針及び良好な景観の形成のための行為の制限に関する事項等を定めることにより，具体的に景観の保全・形成を行うものです。

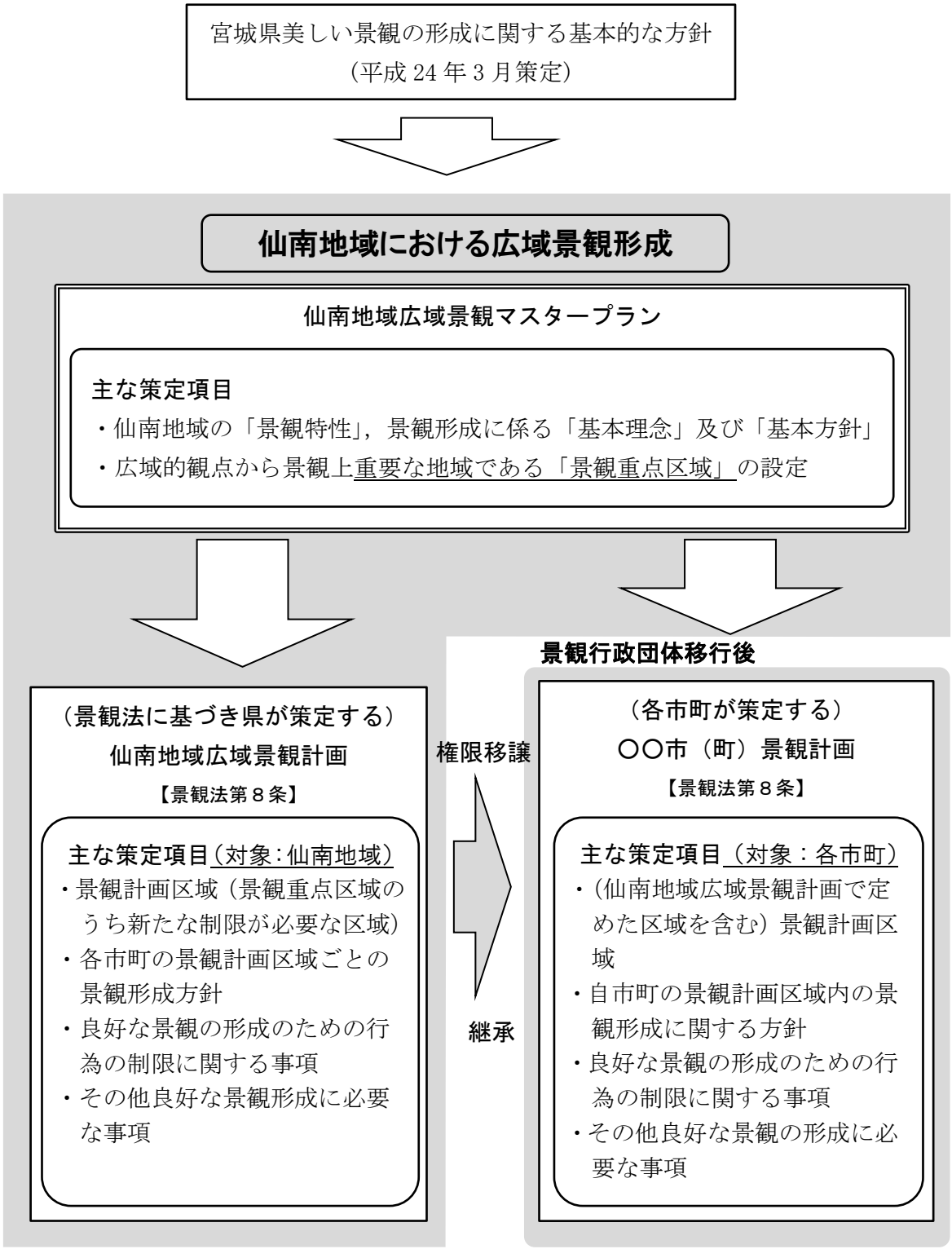
景観計画区域内の建築や開発行為等を行う際，良好な景観の保全・形成のために遵守する必要のある景観形成基準を設定し，今ある景観との調和や新たな魅力をつくり出すよう誘導を図ることにより，景観形成に実効性を持たせることを意図しています。区域内の景観形成に関する方針は，地域住民及び関係市町との意見交換を行いながら定めます。

（４）各市町独自の景観計画（各市町が景観行政団体移行後に策定する）

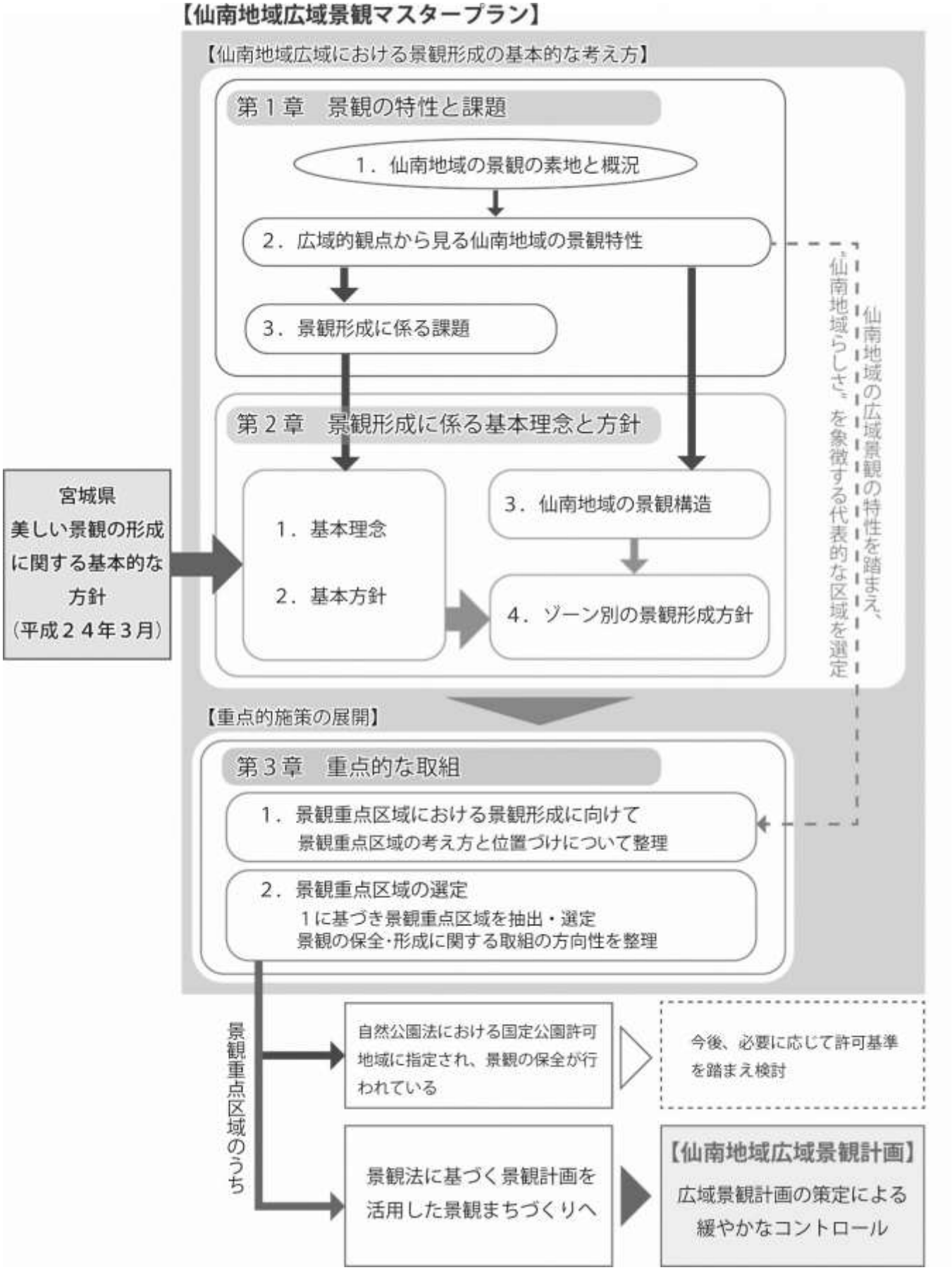
本計画が策定された後は，県及び関係市町は本計画の方針に基づき，連携して景観形成を図っていきます。

また，仙南市町が景観行政団体に移行し，景観法に基づく景観行政の権限が移譲される際には，県が策定した「仙南地域広域景観計画」のうち，各市町に該当する内容及び取組は継承した上で，各地域の実情を踏まえ，よりきめ細かな景観形成につながるよう，市町が主体となった「景観計画」へと見直しを行っていくことが望ましいと考えます。その際には，再度，各市町が主体となって地域住民との意見交換をより詳細に行い，仙南地域広域景観計画を磨き上げていくことを推奨します。

▼仙南地域広域景観マスタープラン及び景観計画の位置づけ



▼仙南地域広域景観マスタープラン　体系図



第１章　景観の特性と課題

１．仙南地域の景観の素地と概況

（１）仙南地域の概況整理

１）仙南地域の位置

仙南地域は，宮城県の内陸南部に位置し，白石市，角田市，蔵王町，七ヶ宿町，大河原町，村田町，柴田町，川崎町，丸森町の２市７町で構成される広域圏です。

地域の北部から東部にかけて，仙台市，名取市，岩沼市，亘理町，山元町と接しており，西部は山形県，南部は福島県と接しています。

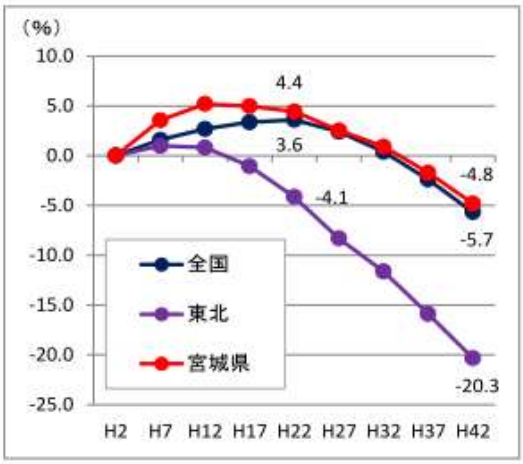
広域交通網を見ると，東北自動車道が仙台市から村田町，蔵王町，白石市を通って福島県へ至り，山形自動車道が村田町から川崎町を通って山形県へ至ります。また，国道４号が岩沼市から柴田町，大河原町，白石市を通って福島県へ至ります。

鉄道網を見ると，ＪＲ東北新幹線，ＪＲ東北本線，阿武隈急行線の３路線が通っています。

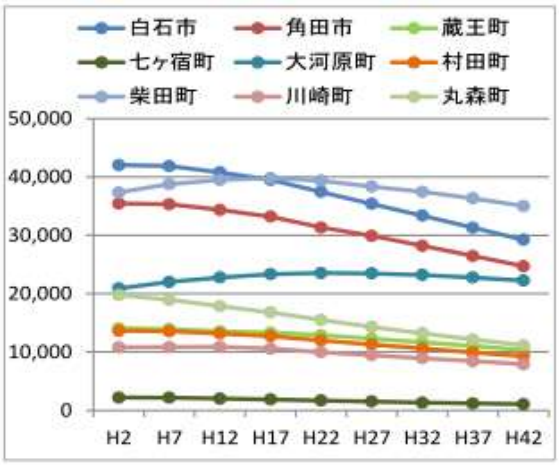
▲仙南地域の範囲

２）人口推移

全国・東北・宮城県の人口増減の推移を見ると，宮城県では平成１２年以降減少傾向にあり，全国平均とほぼ同率で減少していくことが予想されます。また，仙南地域の各市町でも，大河原町を除いた市町では平成１７年以降人口が減少しており，この傾向は今後も継続することが予想されています。人口減少は経済全体の規模の縮小を招くことから，それを補うために交流人口の一層の拡大が求められています。



▲全国・東北・宮城県の人口増減の推移

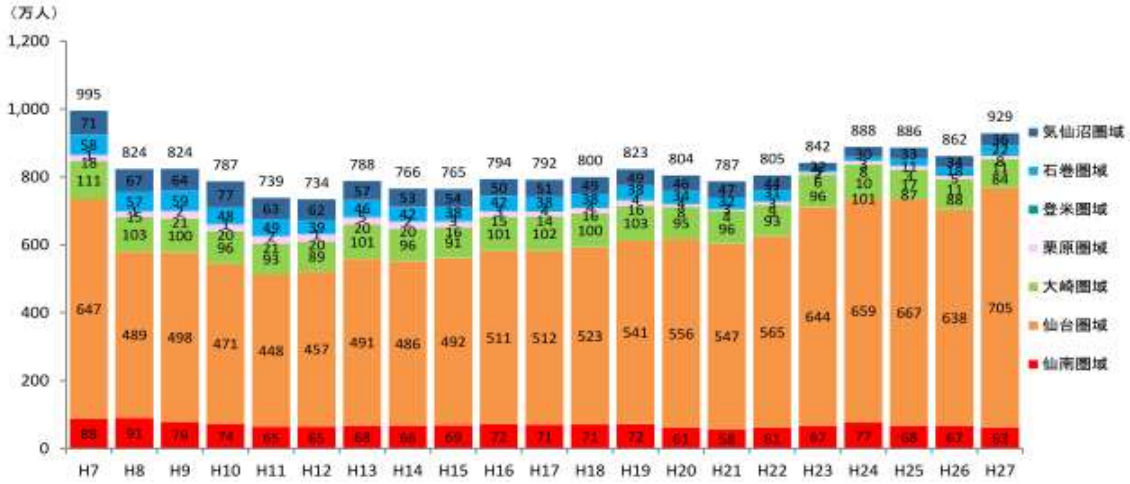


▲仙南２市７町の人口の推移

資料:平成2～22 年は各年国勢調査
平成 27 年以降は「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年3月推計）」／国立社会保障・人口問題研究所

３）観光

宿泊客数が増加している仙台圏域とは対照的に，仙南地域は２０年前より３割減少し，近年は横ばい傾向で推移している状況です。仙南地域は蔵王連峰を中心とした恵まれた観光資源が豊富に存在することから，これらの資源を磨き上げるとともに，その魅力を効果的に全国に発信するなどの取組が求められます。



▲県内各圏域の宿泊客数の推移　（観光統計概要／宮城県）

（２）仙南地域の景観概況

１）仙南地域の地形・風土

①地形

仙南地域西部に位置する蔵王連峰は，宮城県と山形県に跨る最大標高 1,800ｍを超える山々からなる山岳地です。大きく裾野を広げるその姿は地域内のいたるところから見ることができ，仙南地域を象徴する景観のひとつとなっています。

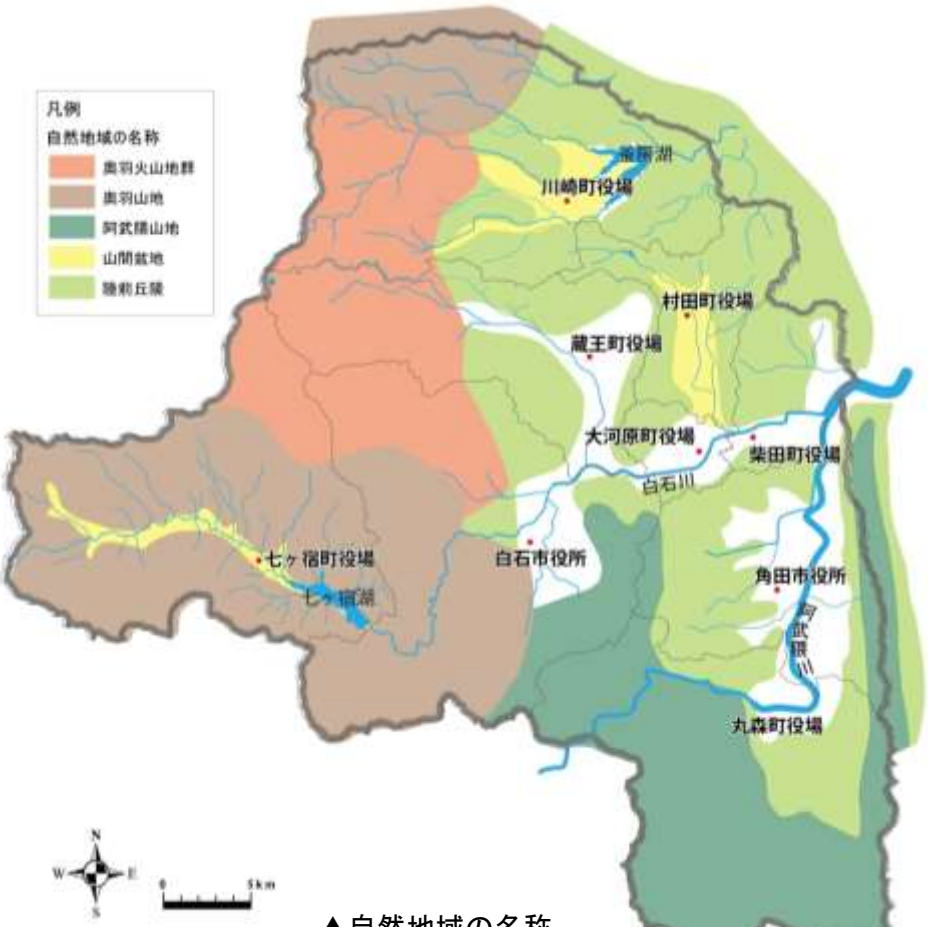
蔵王連峰は奥羽山脈に連なる活火山であり，山頂には噴火跡のカルデラ湖である御釜や滝などの特徴的な地形，山裾付近では雪解け水による豊かな地下水と地熱が合わさった温泉地が多数見られ，仙南地域の多様な景観の素地となっています。

一方，東南には阿武隈山地が広がり，西の蔵王連峰と合せて盆地地形を形成しています。阿武隈山地は古い地層が隆起してできた山脈ですが，長い時を経て現在のなだらかな山地へと変容してきました。また，角田市の斗蔵山や柴田町の四保山（船岡城址公園）等，市街地近接部にも丘陵地が位置します。阿武隈山地は，標高の高い蔵王連峰とは対照的に標高が低くなだらかな山々が連なり，人々の生活に寄り添った里山景観を形成しています。

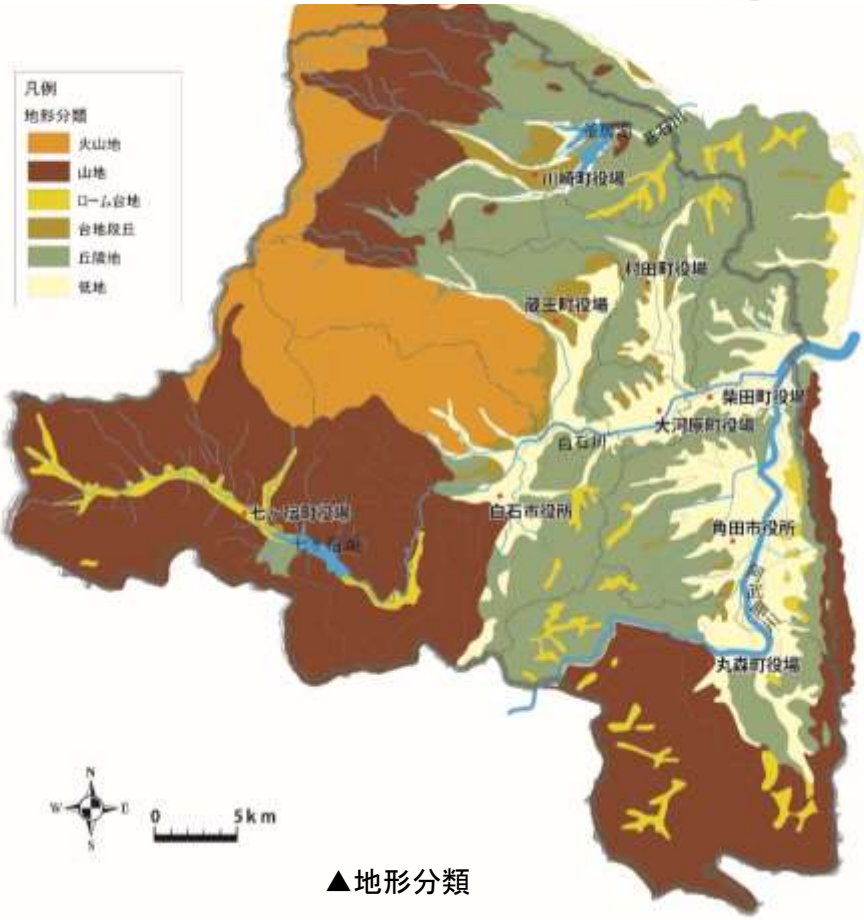
▲蔵王連峰（大河原町）

▲阿武隈山地（丸森町）

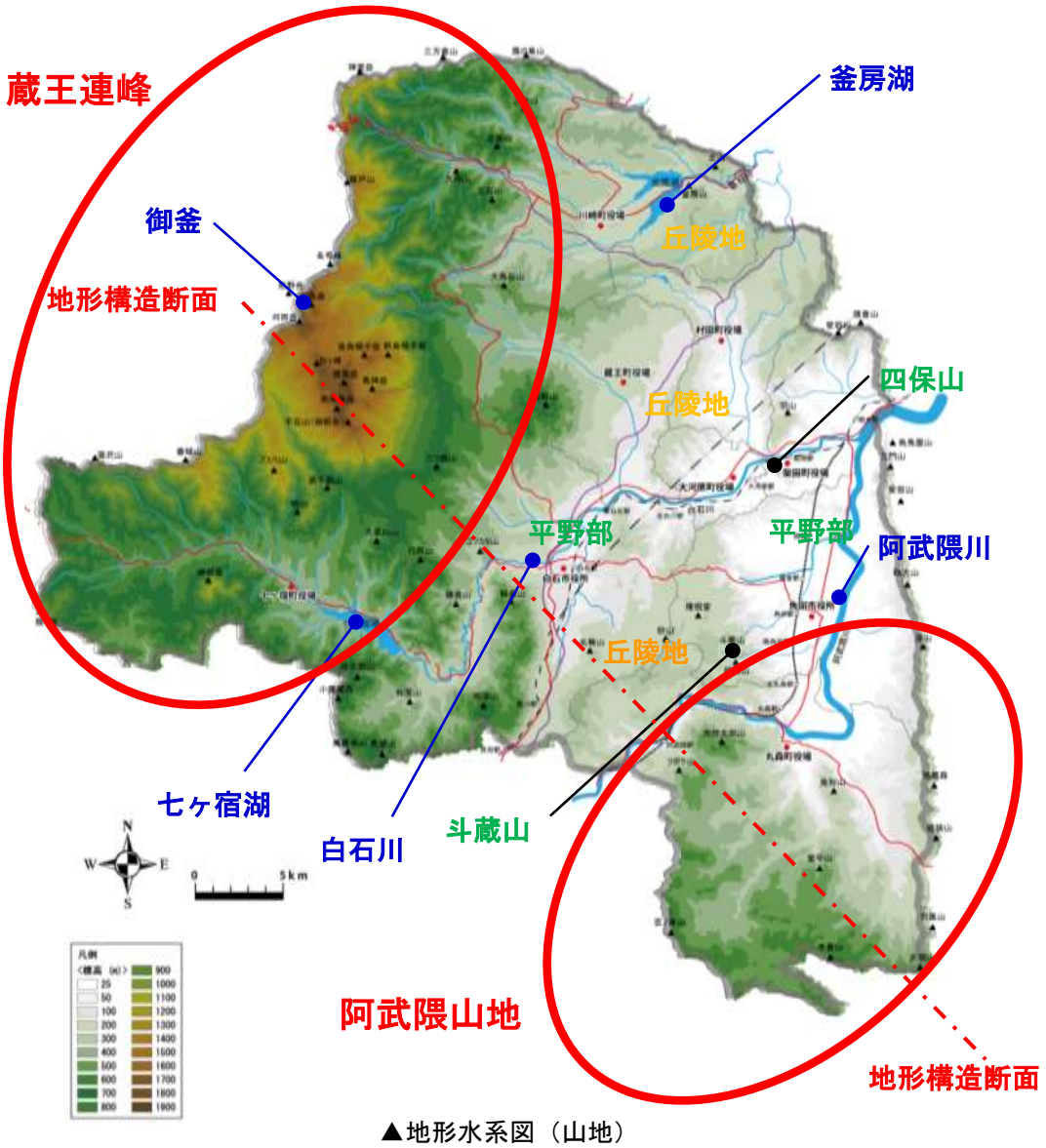
▲四保山（柴田町）



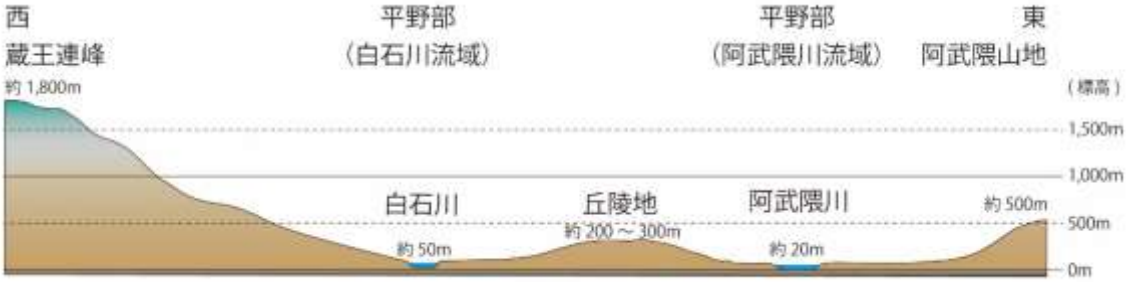
▲自然地域の名称



▲地形分類



▲地形水系図（山地）



▲仙南地域の地形構造断面イメージ

②河川（流域・水系）

仙南地域は,阿武隈川及び白石川の阿武隈川水系を中心とした阿武隈川流域と，川崎町から東へと流れる名取川流域の大きく２つの水系から形成されています。

阿武隈川は福島県に源流を持ち，丸森町と角田市の境界付近から広く穏やかな下流域となり，水の流れによる豊かな水辺の景観が広がります。一方，白石川は阿武隈川の支流に当たり，七ヶ宿町に源流を持ちます。途中，七ヶ宿町東側には「ダム湖百選」にも選ばれた七ヶ宿湖が建設され，仙台都市圏における重要な水源地として，広がりのある水辺景観が見られます。

平野部では，白石市から大河原町，柴田町の市街地を経て阿武隈川の流れと合流し，太平洋へと注ぎます。白石市では，白石川から街なかに水が引き込まれ，掘割や水路では今でも絶えず水が流れる景観が見られます。水の流れは，かつての城下町の都市防衛や生活用水としての利用を伝える景観要素として，白石の城下町らしさを醸し出す景観となっています。大河原町から柴田町にかけては，川幅が広がり穏やかな下流域らしい川の様子に変わり，両岸に植樹された桜並木とともに美しい水辺景観が人々に親しまれています。特に春には，冠雪の蔵王連峰と桜と白石川がつくり出す仙南地域を象徴する春の美しい景観が見られます。

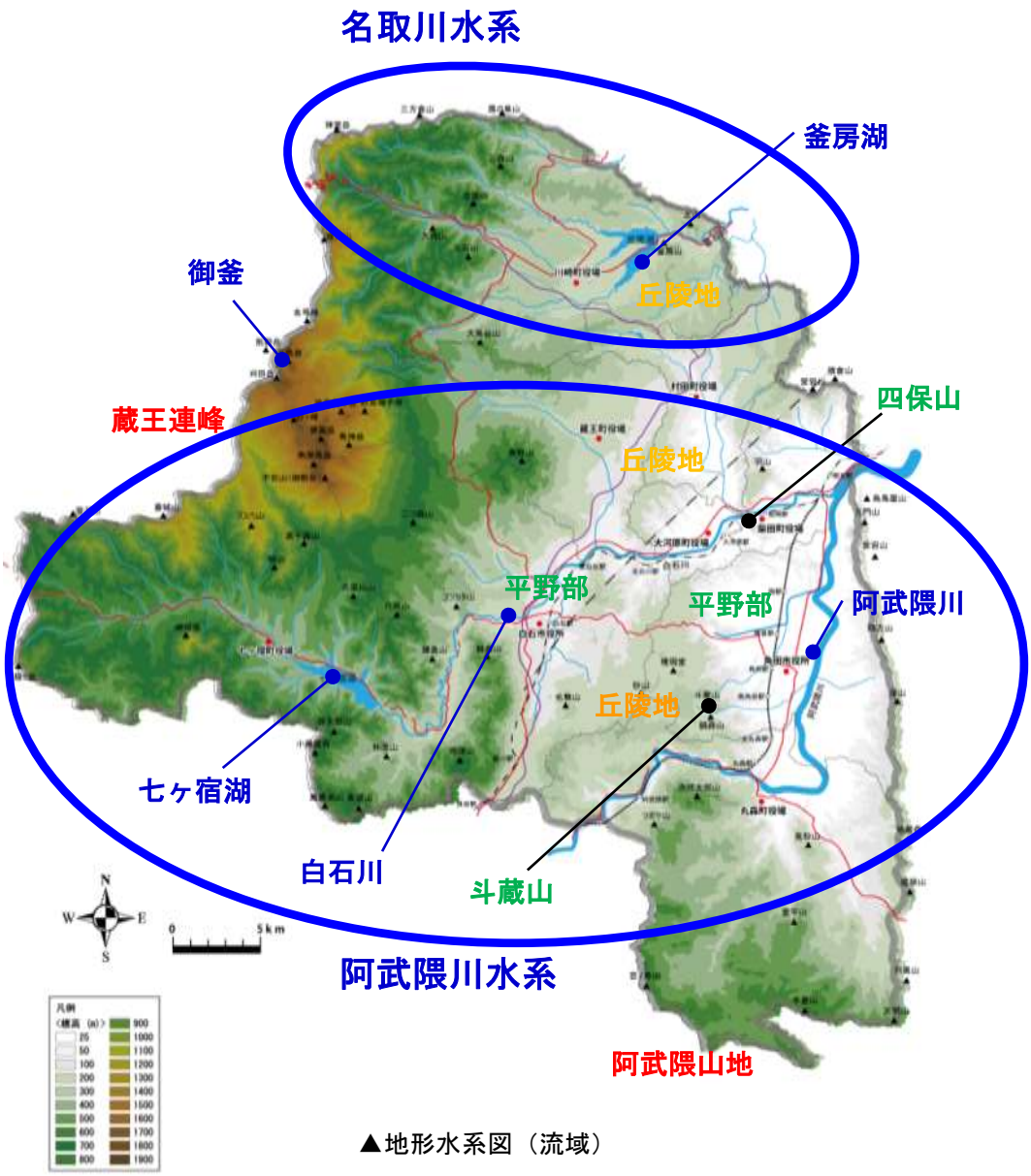
川崎町を流れる３つの河川の水を受ける名取川水系の釜房湖は，七ヶ宿湖と同様に，仙台都市圏の重要な水源地を担う水辺であると同時に，遠くに蔵王連峰を望む雄大な水辺景観を形成しています。

▲阿武隈川（角田市）

▲白石川（大河原町）

▲釜房湖（川崎町）

▲七ヶ宿湖（七ヶ宿町）



▲地形水系図（流域）

▲流域全体の位置と主な支流

③気候

仙南地域では，蔵王連峰による標高差から，場所によって大きく気候が異なります。西側の山間部では冬から春にかけて積雪が残り，また，冬には丘陵地や平野部でも積雪します。

そのため，仙南地域の山間地では主に広葉樹が多く広がることから，夏には豊かな緑，秋には鮮やかな紅葉が見られるなど，季節によって山の彩りが大きく変化します。

また，山間地を中心に積雪が多いエリアであり，冬の蔵王連峰は一面真っ白な景観に変化します。山麓・低地エリアでも積雪が多いため，冬場は一面の銀世界の景観が広がることも気候条件から見える景観の特徴の一つです。

さらに，この積雪による気象上の特性によって，西から東へ蔵王連峰からの強い吹き降ろしの風「蔵王おろし」が吹きます。風は本来目に見えませんが，このような強い風から屋敷地や農地を守るための人々の工夫として，田園地域では，街区上に建ち並ぶ防風林や，屋敷や蔵を取り囲む屋敷林を見ることができます。

▲紅葉する山（七ヶ宿町）

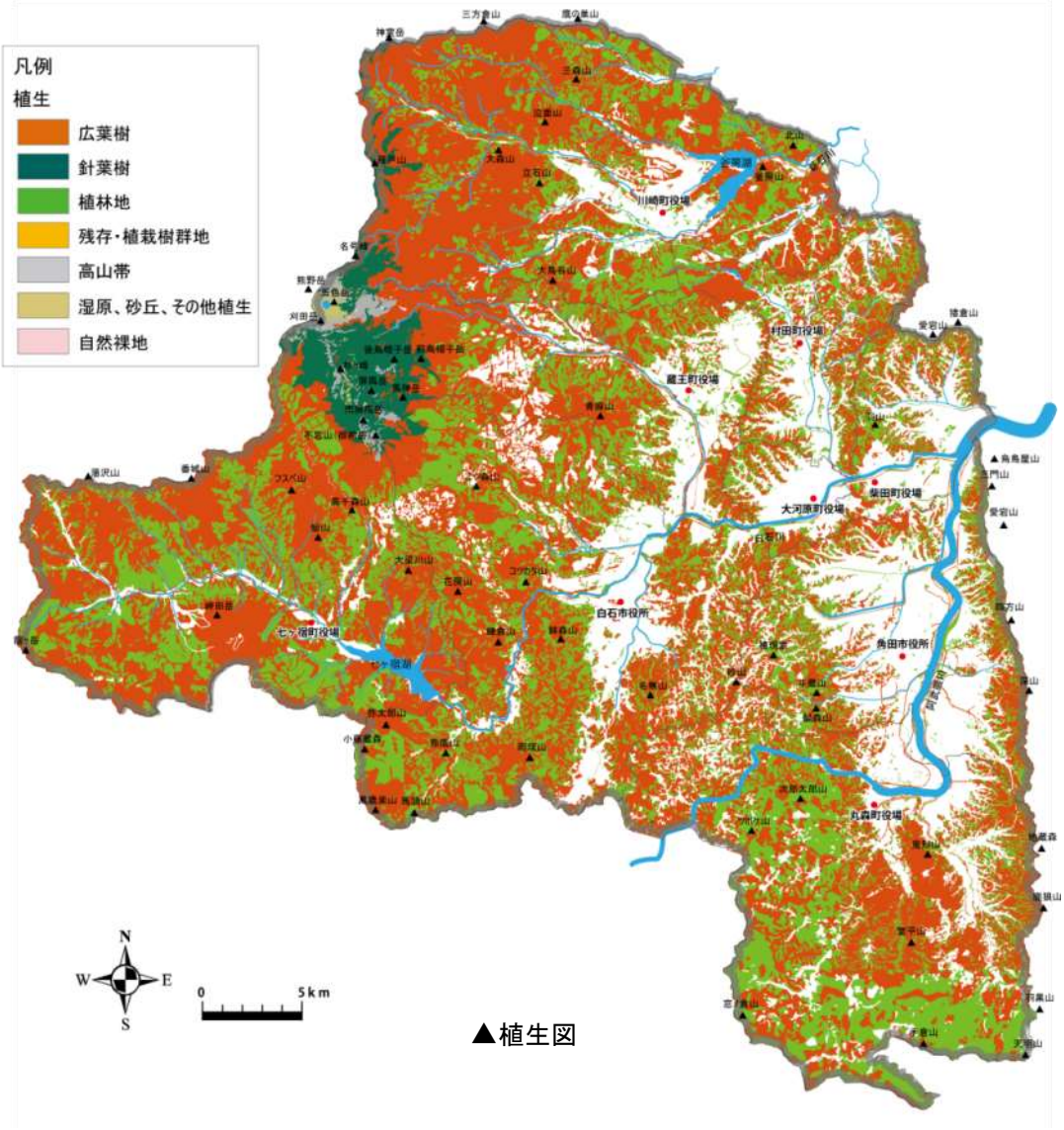
▲厳冬の刈田嶺神社（蔵王町）

▲防風林（川崎町）

④植生

蔵王連峰の標高の高い場所では高山性の植生が見られ，山麓エリアでは広葉樹と植林地（針葉樹）が混ざり合うパッチワーク状の林相が見られます。これらは冬になると，落葉する広葉樹と常緑の針葉樹への積雪の違いにより，植生の混ざり合った景観がいっそう際立つことで山の特徴を伝える景観となっています。

▲針葉樹と広葉樹のパッチワークの様子（蔵王町）



▲植生図

２）仙南地域の生業・経済活動

①農山村における暮らしと生業

耕作地の分布状況を見ると，蔵王連峰の標高 500～800mほどの高原では牧草地や高地で栽培するそばなどの畑，斜面地での棚田，標高 200～400mの山麓・丘陵部では果樹園，標高 200m以下の沖積地では広く水田が分布し，地形に沿った生業が展開しています。

高原では牧草の栽培とともに酪農が盛んに行われ，特徴的な景観を形成しています。高原の地形や気候風土に応じた農作物の栽培や，斜面地での棚田は，その土地の人々が自然に折り合いながら営みを育んできた文化が景観として表れています。

山麓・丘陵部に当たる蔵王町を中心に，扇状地の中腹において水はけのよい土地の特性に応じた果樹栽培が盛んで，果樹園を中心に季節の花や実りある景観が広がっています。

河川沿いを中心とした沖積地では,阿武隈川水系の豊かな水が広大な農地を潤し,豊かな恵みをもたらす田園景観を形成しています。

このように，多様な移ろいを見せる仙南地域の耕地の面積については，平成１７年から平成２７年の１０年間で，20,430ha から 19,044ha と 6.8%減少しています。特に，畑は 8,330ha から 7,351ha と１０％以上減少しています。近年は，より減少傾向が顕著になっています。

▲高原の牧場（七ヶ宿町）

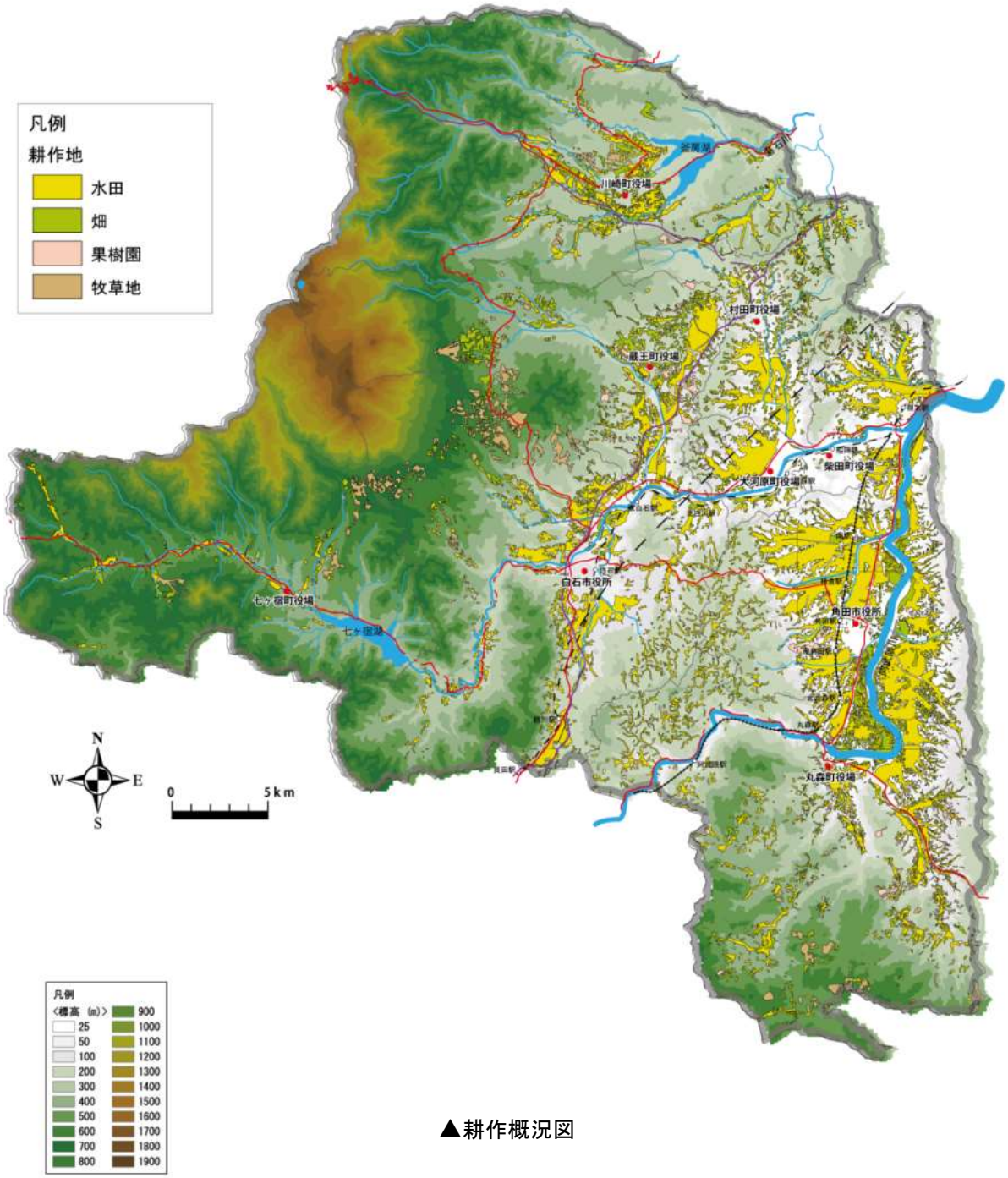
▲山間の棚田（丸森町）

▲丘陵部の果樹園（蔵王町）

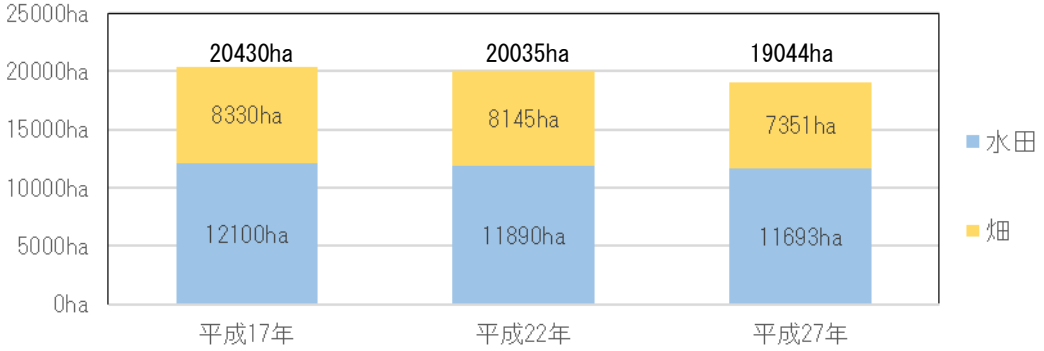
▲高原のそば畑（柴田町）

▲広がりある田園（角田市）

▲広がりある田園（蔵王町）



▲耕作概況図



▲仙南地域における耕地面積の推移（耕地及び作付面積統計／農林水産省）

②特徴的な気候風土と折り合う生活・生業

仙南地域では，「蔵王おろし」と称される強い風が吹きおろすのが特徴です。

仙南地域の田園地域では，強い雨風から家屋・農地を守るための屋敷林や防風林が多く見られます。特に，川崎町では，街区上に一列に高木が立ち並ぶことにより農地や屋敷地全体を強い風雨から守る防風林が特徴的です。

また，仙南地域では，蔵王連峰の火山性の大地と雪解け水などによる豊かな地下水により山麓のいたるところで温泉が湧き出すことから，古くから湯治場が各地で発展し，それぞれの温泉地では，山麓の自然とともに風情ある景観が形成されています。遠刈田温泉では，温泉の排水を冬場の融雪に利用するなど，温浴だけでなく暮らしの中でも温泉の恵みを活用しており，街なかにおいても道路脇から湯気が湧き上がる特徴的な景観が見られます。奥羽の薬湯として知られる鎌先温泉は，静けさと深い緑に囲まれた山間に位置し，日が暮れると湯屋から漏れる明かりが通りを照らし，温泉地ならではの雰囲気を感じられます。

蔵王町や七ヶ宿町では，蔵王連峰の地形や自然公園としての豊かな自然を活用し，山の斜面を整備することにより，夏はキャンプ場，冬はスキー場として利用し，地形と気候を活かした自然の豊かさを享受できるレクリエーション活動が見られます。

▲町の中に林立する防風林（川崎町）

▲遠刈田温泉（蔵王町）

▲鎌先温泉（白石市）

▲キャンプ場兼スキー場（七ヶ宿町）

③都市の成り立ち

蔵王連峰の急峻な地形と阿武隈山地やその他の丘陵地が多い仙南地域では，低地が少なく，山間盆地や河川沿いの平野部を中心に都市や町場が形成されています。そのため，白石市，角田市，蔵王町，大河原町，村田町，柴田町，丸森町，川崎町に都市計画区域が指定され，そのうち白石市，角田市，大河原町，村田町，柴田町，川崎町の市街地に用途地域が指定されています。

これらの都市や町場は，その歴史的背景から都市の成り立ちについて整理することで，大きくは３つのタイプに分けられます。

▲仙南広域都市計画区域　付図（仙南広域都市計画区域の整備，開発及び保全の方針・令和２年５月）

◆交通の要衝として栄えた町

白石市，柴田町，村田町，川崎町，角田市は，それぞれに城砦があり，中世期から交通の要衝であり軍事上の要衝を担う土地でもありました。

仙南地域は，藩政時代には国境であることから，城を中心に城下町が形成され，その町割りはおおよそ維持され,街並みを通して町の歴史性を見ることができます。なかでも，白石市では，西側から吹き降ろす風に対して城山が風よけとなるよう城下町を配置し，白石川を城の防衛や生活用水として堀や水路として城下町に引き込むなど，地形を活かした都市がつくられ，現在の市街地の景観の素地となっています。

▲白石城（白石市）

▲掘割と武家屋敷地（白石市）

▲交通の要衝として栄えた町　位置図

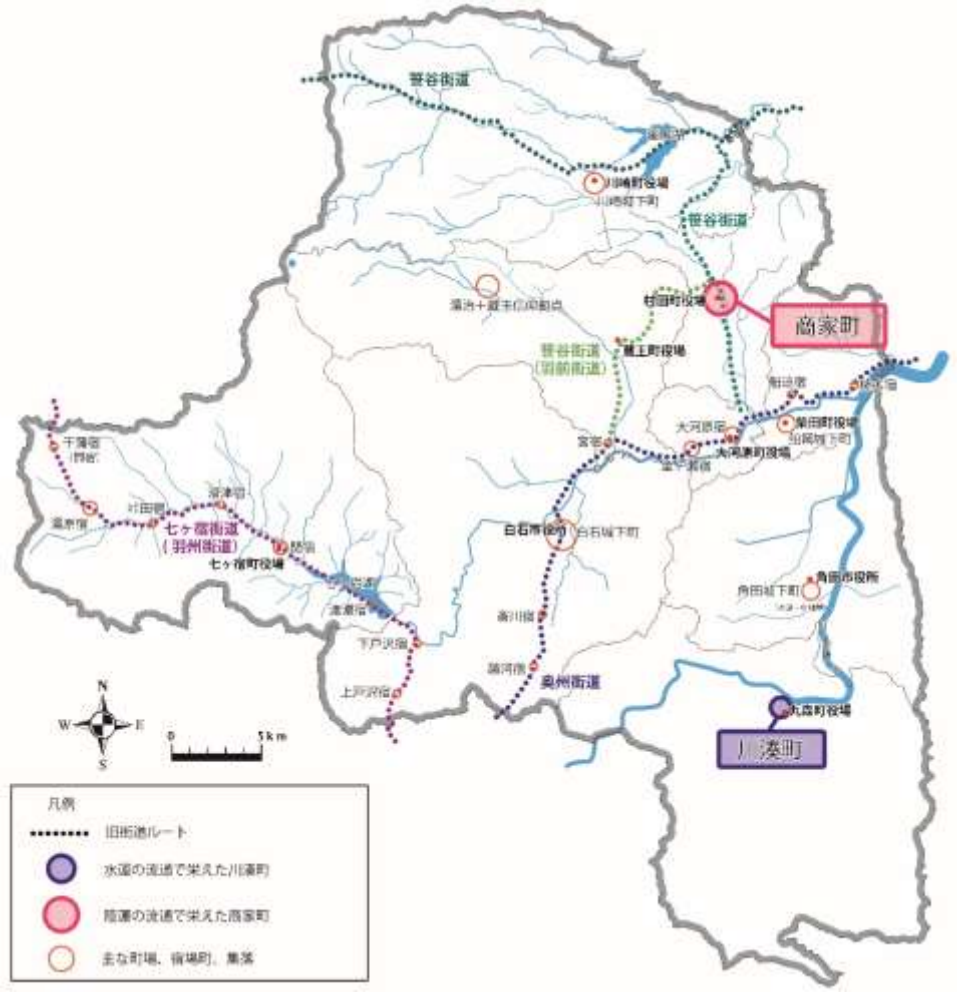
◆水運・陸運等の流通で栄えた町

丸森町は，阿武隈川の水運により米や物資の輸送における川湊として栄えた歴史を持ち，水運の役割が終わった現在でもライン下り観光など，川とのつながりを持つ町場です。洪水の被害を避けるため町場の中心機能を移動させた現在でも，豪商として名をはせた旧齋藤家住居である「齋理屋敷」をシンボルとした地域づくりが行われ，観光名所として大事に活用しています。

村田町は，近世期には紅花をはじめとした特産品の上方への流通で栄えました。村田町を通る街道は，仙南地域で生産された紅花の集荷・流通の拠点として店蔵が建ち並び，現在でも住宅や店舗として大切に利用されており，特徴的な街並みが維持されています。

▲川湊の名残と店蔵（丸森町）

▲店蔵が連なる街並み（村田町）



▲水運・陸運等の流通で栄えた町　位置図

◆街道沿いの宿場町として栄えた町

仙南地域は，古くから奥州街道をはじめとして，七ヶ宿街道，笹谷街道などが通る交通の要衝でした。よって宿場町として多くの宿が立地し，現在も町場として残っています。

奥州街道は，江戸から白河，さらには青森県の三厩までの道を繋いでおり，かつての江戸と奥州を繋ぐ重要な道でした。仙南地域では，白石市から柴田町（槻木宿）まで宿場町が並び，そのときの町場での道と建物の関係や営みの名残が，今の市街地の景観の素地となっています。

七ヶ宿町は，山形県へ抜ける七ヶ宿街道が町の中心を通っており，かつては町名の通り街道沿いに７つの宿場町がありました。七ヶ宿湖の建設により１つの宿がなくなりましたが，町内には旧関宿，旧滑津宿，旧峠田宿，旧湯原宿の４つが町場として残っています。

笹谷街道は山形県・秋田県へつながる羽州街道の一部で，村田町から川崎町を通って山形県へ向かいます。川崎町では，大きく立ち並ぶ松並木がかつての街道としての道筋を象徴する景観となっています。

▲宿場町の名残と店蔵（大河原町）

▲宿場町の名残（七ヶ宿町）

▲街道を示す松並木（川崎町）

▲仙南地域の旧街道と街道沿いの宿場町の位置図

▲（参考）周辺の旧街道の位置図

④交通ネットワーク

◆道路網

仙南地域は，白石市から柴田町にかけて国道４号が通っており，交通利便の良さから大規模な商業施設が建ち並ぶ沿道景観が見られます。高速道路は，東北自動車道と山形自動車道が通っており，広域交通の要であるとともに，仙南地域に入ると車窓からは雄大な蔵王連峰や自然景観を望むことができます。

これら広域交通網の多くは，歴史的な広域ネットワークを形成してきた街道に由来しており，国道４号は奥州街道の経路にほぼなぞらえた形で整備され，その他街道も国道や県道として整備されて，昔も今も変わらず仙南地域の流通・往来を支える重要なルートを担っています。

▲国道４号沿道（大河原町）

▲国道４号沿道（白石市）

◆鉄道

近代に入り鉄道が整備されることにより，鉄道が担うネットワークは，人や物の動きを変える都市形成や産業活動において大きな影響をもたらします。

仙南地域では，ＪＲ東北本線とＪＲ東北新幹線，阿武隈急行線が通っています。これら鉄道は，近世までの輸送手段であった水運に変わり，古くから町場として成り立っている市街地に沿って設置され，多くの町は歴史的市街地の縁に玄関口として鉄道駅が整備されていきます。駅前では，都市の発展とともに新たな市街地が形成され，現在の市街地景観へと変化してきました。

また，ＪＲ東北本線は，東白石駅から槻木駅にかけて白石川沿いを走ることから，車窓からしばしば河川景観を望むことができます。阿武隈急行線は，福島県との県境から丸森町までの間，阿武隈川沿いを走ることから，渓谷を流れる阿武隈川の河川景観を望むことができます。

▲白石川と JR 東北本線（柴田町）

▲東白石駅から見る白石川（白石市）

◆観光ルート

近世には，蔵王信仰から派生した「蔵王詣で」が盛んとなり，仙南地域には多くの来訪者（現在でいう観光客）を迎え入れてきました。

近代に入り，美しい自然環境を楽しむエッセンスが加わり，雄大な蔵王連峰への登山道として「蔵王エコーライン」及び「蔵王ハイライン」が整備され，山頂まで車で行くことができ，道中の自然景観や山頂の雄大な景観を見ることができます。

▲蔵王エコーラインの紅葉（蔵王町）

▲蔵王エコーラインからの眺め（蔵王町）

▲交通網図

⑤史跡・民俗（文化）

仙南地域に分布する史跡や様々な民俗（文化）は，仙南地域で生きてきた先人たちの営みが現在までどのように辿ってきたのか，その歴史性を知る重要な要素の一つです。それらは，今を生きる人々の営みと一体となり，地域らしさの一躍を担う景観となっています。

◆史跡

仙南地域は，阿武隈川下流域を中心に古墳が多く見られます。代表的なものとして，角田市の大久保古墳群，丸森町の台町古墳群が上げられます。古墳の存在は，この界隈が古代より安定した土地として，人々の営みが継続されてきた豊かな土地であったことを今に伝えています。

現在，これらは，集落の近くにそびえる小高い里山のような状態となり周囲の田畑と一体的な緑の景観を形成しており，地域にとって大切な場所として保全が図られています。

▲大久保古墳群（角田市）

▲台町古墳群（丸森町）

◆民俗（信仰と寺社仏閣）

仙南地域は古くから白鳥飛来の地であり，日本武尊伝説や坂上田村麻呂による東方遠征に由来する「白鳥信仰」が広く浸透していたことから，村田町の白鳥神社や蔵王町の刈田嶺神社白鳥大明神などの古い歴史を有する寺社が多く分布しています。

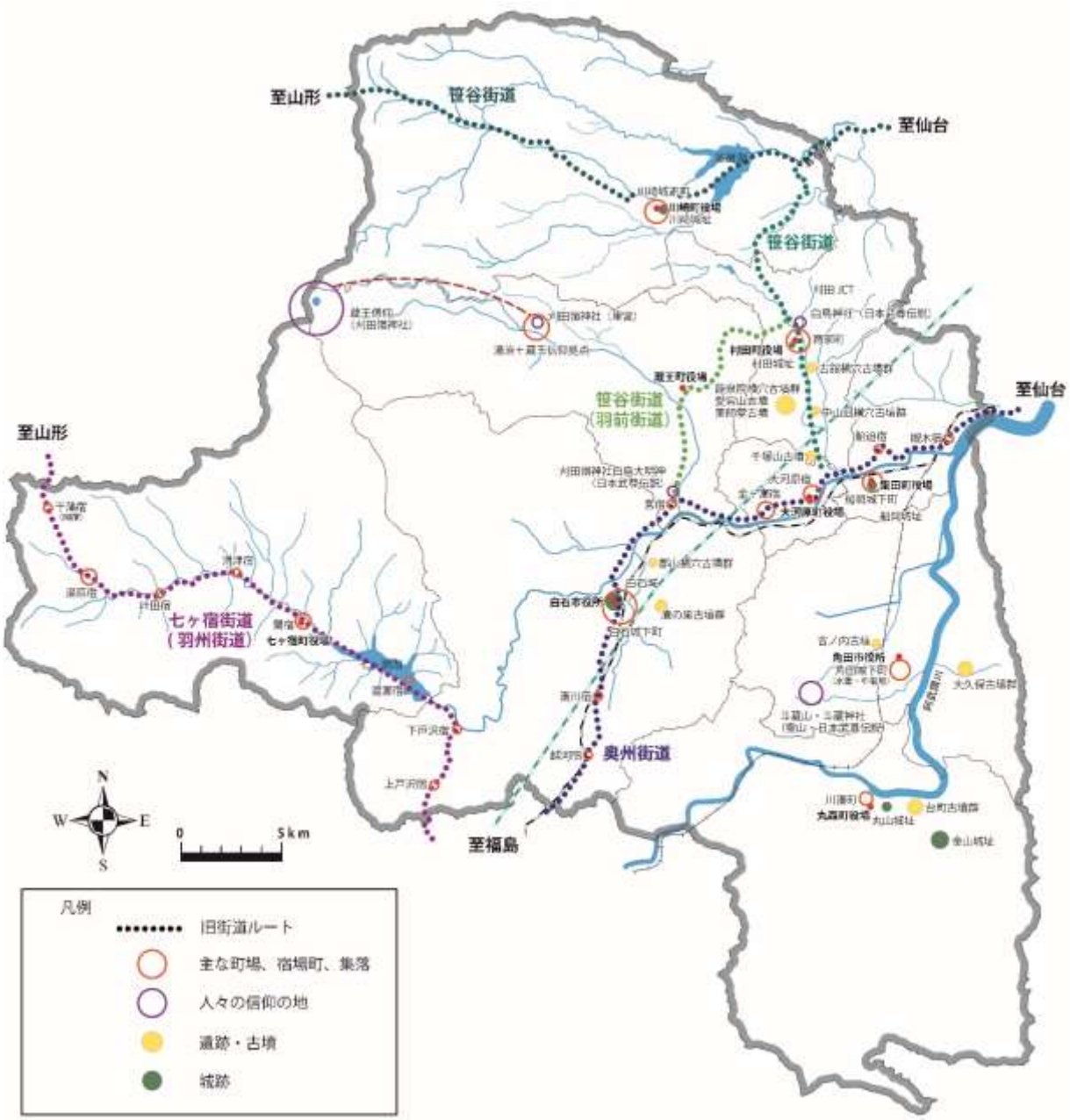
蔵王連峰は，古くは「刈田嶺」や「不忘山」と呼ばれ，人々の信仰の対象でした。７世紀頃，修験道の本山である奈良の吉野から「蔵王権現」が勧請され平安時代に修験道が盛んになると，「蔵王」という呼称が定着するようになりました。刈田岳の山頂と遠刈田温泉には蔵王権現を祭った刈田嶺神社が鎮座しており，蔵王信仰の象徴地となっています。

角田市の勝楽山高蔵寺の阿弥陀堂は，宮城県最古の木造建築で，平安時代の治承元年(1177 年)に，奥州藤原氏秀衡の妻女によって建立されたと伝えられています。阿弥陀堂は，堂内に安置された阿弥陀如来坐像とともに，国の重要文化財として大切に保存されています。また，斗蔵山も古くから霊山として崇敬され，斗蔵寺本堂には県指定文化財の銅造千手観音像懸仏が安置されています。地元では斗蔵山は「おとくらさん」と親しまれ，霊山信仰は，今でも地域の身近な山を大切に思う文化と

して残っています。

▲刈田嶺神社白鳥大明神（蔵王町）

▲斗蔵寺観音堂（角田市）



▲史跡・民俗に関する要素の分布

▼（参考）蔵王連峰と人々の関わりを示す出来事や事柄

時代	出来事・事柄
古代	・古今和歌六帖に不忘山を歌枕とした歌が残るなど，古くから人々にとってランドマークとなっていたことが伺える。 「みちのくに　あふくま川の　あなたにや　人忘れずの　山はさかしき」 ・有史以来活発な火山活動が記録されており，それにより温泉が形成されてきた。 ○山岳信仰 ・刈田岳に刈田嶺神が祀られ，山岳信仰の対象となっていた。 ・刈田峰神が貞観 11 年(869)に従四位下を朝廷より授けられるなど，宮城･山形にまたがり信仰の対象となる寺社仏閣が立地していった。 ・当初は青麻山山頂に刈田嶺神社（神道）が鎮座していたが，平安時代初頭にはより人里に近くて便利な青麻山東麓に遷座した。 ・大和国吉野山・金峰山権現蔵王堂の祭神である蔵王大権現が分祀され，山麓に設けられた僧坊には，深山幽谷で荒行を積むことによって法力を培う「修験道」のために多くの修験者が集った。 ・修験者たちが道場とした山は，願行が蔵王大権現を祀ったことから「蔵王山」と呼ばれるようになった。
中世・近世	・戦国時代中期には青麻山東麓の刈田峰神社が奥州街道と笹谷街道が交差する交通の要衝（現在の宮地区のもの）に遷座し，江戸時代には地域住民の信仰の要として崇敬された。 ・遠刈田温泉は刈田岳山頂の蔵王大権現社へ向かう参詣路上にあり，その管理を行っていた温泉街にある寺院嶽之坊内の蔵王大権現御旅宮へ冬季に季節遷座が行われるようになり，冬季の温泉街は参拝の対象地ともなっていた。 ・温泉地の土産物として，こけしが販売されるようになった。
近代	・刈田岳山頂の蔵王大権現社と嶽之坊は神社となり，それぞれ刈田嶺神社（奥宮・里宮）となった。 ・大正時代よりスキー場が開設され，温泉・信仰に加えレジャーの場としても利用される場となっていった。 ・昭和 25 年には蔵王が全国観光地百選に一位当選し，全国的にその存在が知られることとなった。
現代	・温泉やスキー場，自然を活用した景勝地等への観光客が来訪する観光地として定着している。 ・多くの小中学校の校歌で蔵王や不忘山等の名称が取り入れられており，現在でも地域のシンボルとして認識されていることが伺える。 ・小中学校の遠足先として蔵王連峰やその関連施設等が利用されており，児童にとっても親しみを持つことが出来る場となっている。

◆民俗（祭事とイベント）

仙南地域では，信仰に基づいた祭事に加え，地域に由来のある歴史的な著名人にちなんだお祭りや名産品を活かしたイベントなど，多様な行事が行われています。それぞれの行事に地域の特色や人々の誇りが現れており，仙南地域の景観を形づくる人々の文化の素地を垣間見ることができます。

・蔵の町むらた　布袋まつり（村田町）

「布袋まつり」の起源は古く，布袋和尚の徳を慕って，交易があった京都の山車まつりを参考に生まれたものと言われています。布袋囃子の笛のメロディーは，平安時代末期に「一ノ谷の合戦」で討ち死にした平敦盛が好んで奏でた曲で，平家の落人が村田町に伝えたとされています。時代とともにその形は少しずつ変化し，今でも郷土色豊かな秋の伝統芸能として町民に広く親しまれています。

▲布袋まつりの様子（村田町）

・鬼小十郎まつり（白石市）

白石城は，かつては伊達家家臣の片倉家の居城でした。白石市では，大坂夏の陣で活躍し，鬼小十郎の名を馳せた二代目小十郎重長と，日本一之兵と呼ばれた真田幸村との激闘「道明寺の戦い」の再現などが見られる「鬼小十郎まつり」を開催しています。歴史の一幕の再演により，地域に対する誇りを再確認しながら，まちの賑わいを創出しています。

▲鬼小十郎まつりの様子（白石市）

・支倉常長まつり（川崎町）

幼少期を支倉村（現在の川崎町支倉地区）で過ごした支倉常長は，伊達政宗の家臣であり，慶長遣欧使節団としてヨーロッパに渡りました。川崎町では，支倉常長の偉業をたたえるとともに，故郷「かわさき」にまつわる歴史と文化を語り継ぐため，「支倉常長まつり」を開催しています。

▲支倉常長まつりの様子（川崎町）

・桜まつり（大河原町，柴田町）

大河原町及び柴田町内を流れる白石川河川敷の桜は「一目千本桜」として有名ですが，大河原町及び柴田町では，毎年桜の開花に合わせ「桜まつり」を開催しています。白石川沿いの桜は，地域の人々の憩いであるとともに，毎年多くの来訪者を楽しませる賑わいの場となっています。

▲桜まつりの様子（大河原町）　※大河原観光物産協会提供

・そばまつり（川崎町，村田町，七ヶ宿町，柴田町）

仙南地域ではそばの栽培も多く行われており，毎年１１月上旬に各地でそばまつりが開かれ，地域の人々や来訪者に秋の味覚を提供しています。

▲蕎麦まつり（村田町）

▲蕎麦まつり（七ヶ宿町）

◆民俗（民俗工芸）

仙南地域で作られている工芸品は，生業の合間や農閑期に行われていた工芸が今に伝わり特産物となっています。それらが作られてきた背景を通して，地域の人々の暮らしや文化のあり様を知ることができます。

・木地師集落とこけし文化

こけしは東北地方の風土から生まれ育った素朴な工芸品であり，山地などによって系統が分かれ，仙南地域では，「遠刈田系こけし」（蔵王町・遠刈田温泉）と「弥治郎系こけし」（白石市・鎌先温泉）が代表されます。こけしの由来は，お椀やお盆などを作っていた木地師が子供向けの遊び道具として，男の子は独楽，女の子はこけしとして作られてきたものであると伝えられています。こけしは地元の温泉地とともに発展し，こけしを作る工人である木地師の集落も温泉地に近接して形成されてきました。

遠刈田系こけしは，大きめの頭と細い胴が特徴で，最古の伝統を持つと言われています。一方で，弥次郎こけしの特徴は，頭が大きく，頭頂には豊かな色彩で二重三重のロクロ模様を描くところにあります。弥治郎地区は半農半工の地域で，農閑期にこけしを作り，鎌先温泉の湯治客に木地屋の女房たちが旅館の部屋をまわって売ることを「鎌先商い」と呼んでいたそうです。

このような歴史背景があるこけしは，現在では観賞用として収集され，大人の目を楽しませてくれているばかりでなく，遠刈田温泉の松川にかかるこけし橋（遠刈田大橋）のように，地域のランドマークとしてまちの特徴的な景観をかたちづくっているなど，工芸品の範疇を超え仙南地域を語る上で欠かせない景観要素となっています。

・白石和紙

平安時代の中期頃，東北地方の紙は「みちのく紙」と呼ばれ，格調の高い紙であったと評されています。白石和紙はみちのく紙の流れをくみ，仙台藩主は領内殖産のひとつとして紙すきを奨励し，刈田，白石地方は水質と原料である楮（こうぞ）に恵まれたことから，良質な和紙を産出していました。和紙の種類も数十種にも及び，冬の間は楮市，紙市が白石で開かれ，藩内はもとより東北各地に出荷されていました。また，楮の強靭さを活かし，紙の糸で織られた紙布織や紙で作られた紙衣など衣服にも使用され，紙布織は将軍家などへの献上品ともされるなど，珍重されていたことがうかがえます。

一時はほとんど廃れてしまいましたが，昭和初期に伝統的な手すき和紙づくりを再興し，現在でも郷土を愛した人々の手により，白石和紙づくりを伝える取組が続けられています。

・丸森町のわら細工・竹細工

稲作が始まって以来,「わら」は衣・食・住・生業・運搬・祝い事と生活全般にわたって活用されてきました。丸森町では，わら細工の文化を次世代へ伝承するため，町の特産品としてわら細工が生産されています。竹細工も古来より生活用品として活用されており，製作技術を次世代に継承していくため，民芸品として生産されています。

⑥これまでの景観形成に関する主な取組

仙南地域では，近代以降，人々の手により自然環境の保全や歴史的建造物の保護，地域の新たな魅力づくりなど様々な取組が行われています。それらの取組により，仙南地域を特徴付ける景観が守られ，新たな価値を生み出しています。

・白石川の一目千本桜

大河原町から柴田町にかけて白石川の土手を彩る桜並木は，大正１２年に大河原町出身の実業家「高山開治郎」が白石川の改修工事の折に寄贈し，植樹されたものです。開治郎は，当時冷害や水害で疲弊していた故郷を憂い，「長く心に残るものを」という思いから合計１２００本ものソメイヨシノを寄贈し，それらは地元の職人や学生によって植樹されました。その思いは，今でも地域の住民に受け継がれ，現在も毎年美しい桜の景観を見ることができます。

・蔵王連峰における自然公園の指定

蔵王連峰は，山頂から山裾までの広い範囲について，国定公園と県立自然公園に指定されています。これにより，おおよその開発行為は制限され，豊かな自然景観の保全がなされています。

・村田町における伝統的建造物群保存地区の取組

村田町では，昭和４０年代頃から土蔵造りの店舗が近代的意匠の建物への建て替えが目立つようになり，街並みの連続性が失われていきました。昭和５０年代になると，残された土蔵が観光資源として見直され，また，平成２３年の東日本大震災により土壁などが損壊したことから，蔵が建ち並ぶ街並みを後世に残していくため，伝統的建造物群保存地区制度の導入に取り組み，平成２６年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

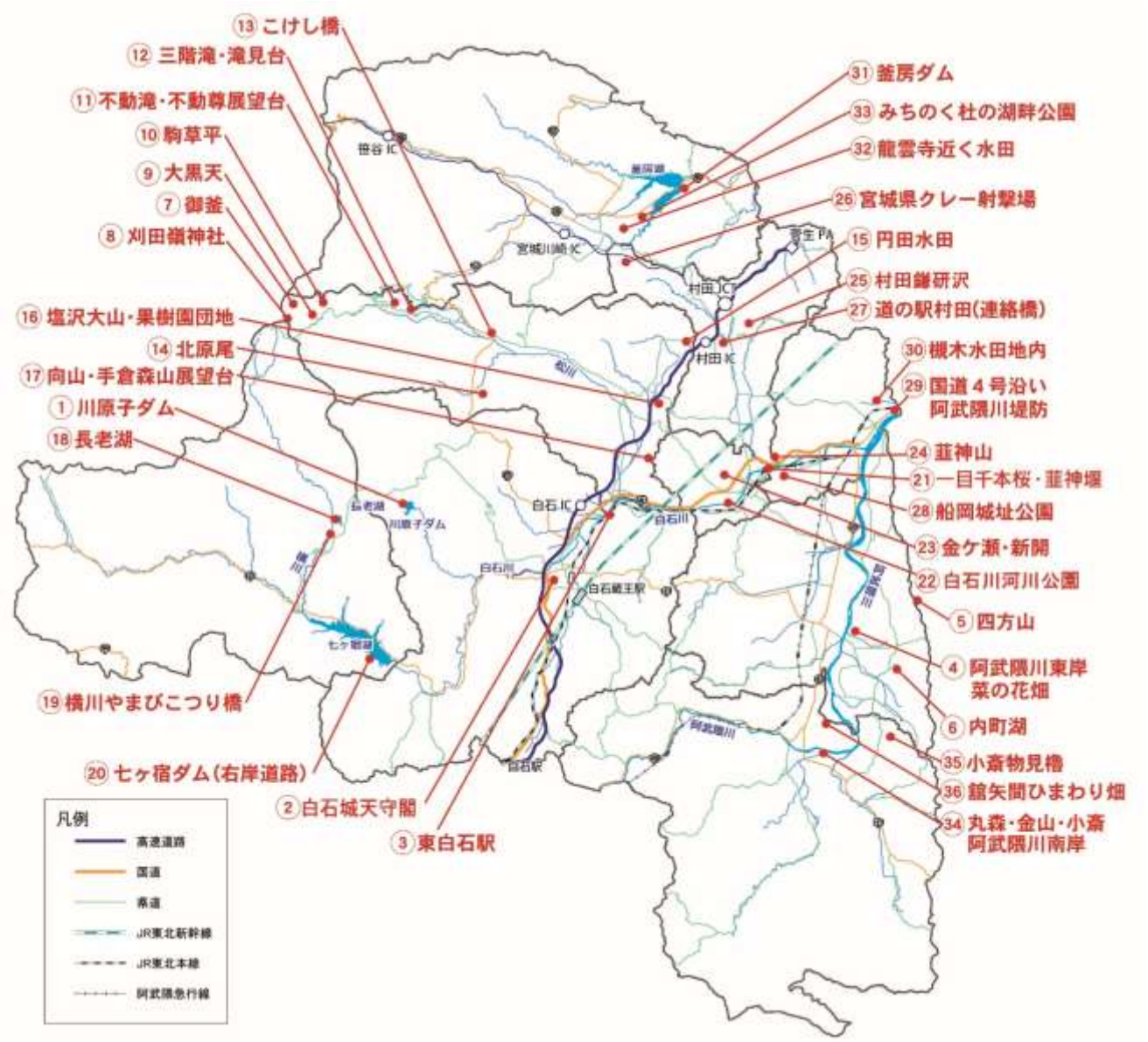
・高蔵寺周辺での取組

角田市高蔵寺の門前を流れる高倉川は，ホタルの保全・育成活動や田んぼアートの取組など，地域住民による取組が積極的に行われています。

ホタルの育成・生育環境の保全活動は，地域ボランティアの手により取り組まれており，毎年「高蔵寺ホタルまつり」が開催されています。また，田んぼアートは地域住民や地域おこし協力隊などによって取り組まれており，毎年見事な図柄が田んぼに表現され，人々の目を楽しませています。

・みやぎ蔵王三十六景

宮城県では，仙南地域や蔵王連峰を望む魅力ある景観を広く周知するため，「みやぎ蔵王三十六景」の選定を行っています。雄大な蔵王連峰を望む景観から，仙南地域の人々が暮らす日々の生活に溶け込んだ景観など，多様な視点から３６箇所の景勝地を選んでいます。



▲みやぎ蔵王三十六景　位置図

▼（参考）みやぎ蔵王三十六景

１　川原子ダム/白石市 	２　白石城天守閣/白石市 	３　東白石駅/白石市
４　阿武隈川東岸・菜の花畑/角田市 	５　四方山/角田市 	６　内町湖/角田市
７　御釜 	８　刈田嶺神社 	９　大黒天/蔵王町
１０　駒草平/蔵王町 	１１　不動滝・不動尊展望台/蔵王町 	１２ 三階滝 ・滝見台 /蔵王町
１３　こけし橋/蔵王町 	１４　北原尾/蔵王町 	１５　円田水田/蔵王町
１６　塩沢大山・果樹園団地/蔵王町 	１７　向山・手倉森山展望台/蔵王町 	１８　長老湖/七ヶ宿町

▼（参考）みやぎ蔵王三十六景（つづき）

１９　横川やまびこつり橋/七ヶ宿町 	２０　七ヶ宿ダム（右岸道路）/七ヶ宿町 	２１　一目千本桜・韮神堰/大河原町
２２　白石川河川公園/大河原町 	２３　金ケ瀬・新開/大河原町 	２４　韮神山/村田町
２５　村田鎌研沢/村田町 	２６　宮城県クレー射撃場/村田町 	２７　道の駅村田（連絡橋）/村田町
２８　船岡城址公園/柴田町 	２９　国道４号沿い阿武隈川堤防/柴田町 	３０　槻木水田地内/柴田町
３１　釜房ダム/川崎町 	３２　龍雲寺近く水田/川崎町 	３３　みちのく杜の湖畔公園/川崎町
３４　丸森・金山・小斎阿武隈川南岸/丸森町 	３５　小斎物見櫓/丸森町 	３６　舘矢間ひまわり畑/丸森町

出典：みやぎ蔵王三十六景ナビゲーションマップ（宮城県大河原地方振興事務所）

２．広域的観点から見る仙南地域の景観特性

仙南地域の景観は，あらゆる場所からその姿を目にすることができる蔵王連峰の山岳景観を象徴とした山や川が織り成す自然景観と，仙南地域の風土とともに人々が生きてきた営み，歴史・文化が一体となって，“仙南地域らしさ”を醸し出しています。

その蔵王連峰を中心に多様に変化する地形において，仙南地域の人々の知恵と工夫により，その土地に応じた営みが育まれています。高原での牧場やそば畑，山麓での果樹園，広がりのある河川沿いの平野部での田園等は，豊かな恵みをもたらす生業とともにある景観として目にすることができます。古くから湯治場として栄える温泉地も，火山である蔵王連峰の恵みを活かす人々の営みがつくり出す景観です。

市街地は，仙南地域の地理的特性を背景に，中世から近世にかけて国境の要衝として,陸上交通網である街道や水上交通網である河川によりネットワーク化されながら，人や物の交流を育み，形成された都市・町場の景観が，時代とともに少しずつ変化しながら，現在の市街地景観をつくり出しています。

また，仙南地域の人々は，太古から神山として蔵王連峰の山々を敬い，その自然を大切に守ってきました。

広域的な観点からみる仙南地域の景観特性とは，地域の象徴である蔵王連峰や阿武隈山地等の山岳及び阿武隈川や白石川等の河川の豊かな自然を礎に，これら自然とともに暮らしてきた人々の営みが生み出す景観が表れているものであり，これが“仙南地域らしさ”の醸成につながっていると考えます。

▲仙南地域の景観特性（全体像）

（1）特性１　蔵王連峰を中心に広がる雄大かつ象徴的な自然景観

- １）蔵王火山の活動による雄大かつ特徴的な地形美
- ２）神宿る地としての象徴性と山容への眺め
- ３）水資源を支える豊かな自然環境
- ４）阿武隈川や白石川等による豊かな水を湛える河川景観

１）蔵王火山の活動による雄大かつ特徴的な地形美

御釜を中心とする地蔵山，熊野岳，刈田岳などからなる蔵王火山は，過去数千回もの噴火を繰り返しながら現在の山体を形成した活火山です。「山の上の火山」と称されるように，蔵王火山は隆起した奥羽山脈の上に載っており，蔵王連峰がつくり出す山岳地は，変化に富んだ地形から構成されています。

五色岳・御釜や，駒草平，馬の背等の数多くの景勝地は，火山活動による噴火や溶岩流により形成された地形，崩壊地形等，さまざまな景観を形成しており，これらは他に類を見ない奥羽山脈と蔵王火山が数万年の時間とともにつくり出した雄大かつ特徴的な地形美を持つ景観です。

これらの特徴ある地形美は，国定公園等の指定により自然環境の保全を図りつつ，多くの来訪者を魅了し，仙南地域を代表する美しい自然景観として地域内外の人々に親しまれています。

２）神宿る地としての象徴性と山容への眺め

蔵王連峰は，奈良時代に蔵王権現の分霊が勧進された後，噴火の度に神聖化が進み神山として崇められ，平安時代の修験道による山岳信仰（蔵王信仰）の聖地と相まって，神宿る地としての象徴性を持つようになりました。さらに，江戸時代には，大小の溶岩が露出する荒涼とした景観があの世とこの世を結ぶ地として認識され，その地へ赴くことは生まれ変わりによる功徳となることから，民衆の間にも蔵王参詣が流行し，多くの人が訪れるようになり，ますますその象徴性が高まりました。

この蔵王連峰が持つ神宿る地としての性質は，蔵王連峰を訪れることや蔵王信仰に関わらず，次第に仙南地域で生きる人々にとっても，その山容への眺めをもって象徴的な存在として感じられるようになっていると言えます。

脈々と人々の心に受け継がれてきた蔵王連峰の象徴性は，仙南地域のどこからでも見える蔵王連峰の山容への眺めを通し，仙南地域らしさとして多くの人々の心に宿る景観となっています。

３）水資源を支える豊かな自然環境

蔵王連峰を中心とする奥羽山脈は，夏の雨，冬の積雪により豊かな水を湛える山地であり，その水資源は，白石川水系である松川をはじめとした多くの河川や湧水

として，仙南地域に恵みをもたらしています。

これらの水資源は，河川沿いの農地を潤すとともに，白石川上流に整備された七ヶ宿湖や名取川の釜房湖等のダム湖では，水道用水やかんがい用水等に利用され，仙南地域や仙台都市圏の多くの人々の暮らしを潤す貴重な資源を担っています。

この豊かな水の環境は，蔵王連峰をはじめとした山（森）の環境の豊かさ（健全さ）の表れであり，山における森と水がつくり出す自然環境は，仙南地域全体の土地の豊かさを支える自然景観であるといえます。

４）阿武隈川や白石川等による豊かな水を湛える河川景観

福島県に源流を有する阿武隈川は，宮城県境の丸森町から角田市にかけて，川幅を広げながら緩やかな流れとともに河道が大きく蛇行し，それに合わせて形成される瀬渕とともに変化に富んだ美しい水辺の景観を形成しています。丸森町では，水運とともに栄えた歴史を活かし，この豊かな阿武隈川におけるライン下り観光も行われ，船上（水上）からの川の眺めが多くの人に楽しまれています。

蔵王連峰に源流を有する白石川では，白石市街から一定の川幅を持った穏やかな流れとなり，大河原町から柴田町にかけて土手には多くの桜並木が整備され「一目千本桜」として多くの人に親しまれています。また，角田市街地周辺では，阿武隈川の河川敷において，桜並木と菜の花が整備されるなど，仙南地域を流れる河川には，花や木々と水の流れが織り成す美しい水辺景観が形成され，これらもまた仙南らしさを育む景観となっています。

▲御釜（蔵王町）

▲蔵王連峰の山容（角田市）

▲白石川上流の水芭蕉群生地
（七ヶ宿町）

▲白石川沿いの桜並木（柴田町）

（２）特性２　仙南の風土とともに生きる人々の営みがつくり出す景観

１）高原から低地まで変化する地形に応じた多様な農の営み
２）火山と水脈を利用した蔵王山麓の歴史ある湯治文化と温泉地
３）屋敷や農地を守る屋敷林や防風林が特徴的な農村景観

１）高原から低地まで変化する地形に応じた多様な農の営み

仙南地域では，蔵王連峰を中心とした奥羽山脈や阿武隈山系により，仙南地域の地形は変化に富んでいると同時に，標高 1,800mを超える蔵王連峰による標高差から場所により気候風土も大きく異なります。

七ヶ宿町では，高原の気候や地形条件に応じた牧場経営やそば栽培等，特色ある農の営みが育まれ，丸森町の山間地等では斜面地での棚田による稲作の風景も見られます。蔵王山麓に位置する蔵王町では，丘陵地形に沿って果樹園が広がり，栽培される果物は蔵王町の特産品となるなど，変化する地形に応じた農の営みが地域ごとの特色ある景観となっています。また，豊かな水を湛える阿武隈川や白石川等の河川沿いには沖積平野が広がり，豊かな水環境と合わせ，稲作を中心とした広々とした田園景観が見られます。

これら，農の営みがつくり出す景観は，季節によって刻々とその姿を変化させることで季節を感じさせ，それらを生業とする人々が暮らす集落地と一体となって，仙南地域の豊かさを醸し出す景観のひとつとなっています。

２）火山と水脈を利用した蔵王山麓の歴史ある湯治文化と温泉地

蔵王連峰の火山性の地形と豊かな地下水は，山麓において温泉の恵みをもたらし，古くから各地に湯治場が形成され，多くの人々を癒してきました。近世に始まる蔵王参詣や，近代の蔵王連峰の自然を楽しむ観光も影響し，これらの湯治文化は次第に多くの来訪者を癒し楽しませる温泉地として，今では仙南地域を特徴づける営みのひとつとなっています。

仙南地域の温泉地は，旅館等の数はあまり多くはないものの，蔵王連峰の美しい自然と調和した静かな風情ある景観を形成しているのが特徴のひとつです。また，山間地で生活を始めた木地師による工芸品のひとつであるこけしづくりも相まって，温泉地の土産品として店先に並ぶようになるなど，仙南地域の湯治文化が生み出した特徴ある景観が受け継がれています。

３）屋敷や農地を守る屋敷林や防風林が特徴的な農村景観

仙南地域では，標高の高い蔵王連峰がもたらす気象現象のひとつとして，冬から春先にかけて強い風が吹き下ろす「蔵王おろし」は，人々の暮らしの中で避けて通れないもののひとつです。

かつて強い風や雨は，時として屋敷や農地に大きな被害をもたらすものであり，先人たちは，屋敷地や農地を守る工夫として，高木を屋敷地の周囲や農地の脇に風向きに応じて配置することで対応をしてきました。このような工夫は，仙南地域の農村集落のあちこちで見られます。

川崎町では，町の中心を通る旧街道に対し，垂直方向に街区ごとに高木が立ち並ぶ防風林の景観が特徴ある農村景観となっています。角田市では，阿武隈川沿いの田園地域において，広がりのある平野部において河川沿いを吹き抜ける風や山からの吹き降ろしの風等を意識した屋敷林を持つ屋敷地が点在し，広がりのある農地とともに特徴ある田園景観となっています。

生活様式の変化と建材・工法の変化により，農家住宅等における屋敷林は減少しているものの，仙南地域の風土とともに生きる人々の営みがつくり出してきた景観として，今でも目にすることができます。

▲春の田園風景（蔵王町）

▲秋の田園風景（蔵王町）

▲鎌先温泉（白石市）

▲旧街道の松並木と屋敷林（川崎町）

（３）特性３　水陸交通の要衝を担った歴史性を継承する都市・町場の景観

１）地形を活かし整備された城下町の歴史と文化を継承した都市
２）水運・陸運による流通で栄えた商業地
３）かつての街道の往来を支えた宿場町の風情を残す町場・集落地

１）地形を活かし整備された城下町の歴史と文化を継承した都市

中世以降，国境に位置する仙南地域は，関東と東北を結ぶ交通の要衝であったことから，歴史的に重要な役割を担うエリアとして，都市が築かれてきました。

なかでも白石市の市街地は，近世に入り本格的に城下町が築かれ，その際，城山により吹き降ろしの風を弱められる位置に城下町を配するとともに，白石川から水を引き入れ城下には堀や水路を張り巡らしました。この城山や白石川等の自然を巧みに利用した基盤は現在の市街地にも継承され，今でも城下には豊かな水が流れ，武家地由来の低層住宅地や町場由来の商店街等とともに歴史性を継承した景観が見られます。近代に入り鉄道網が整備され，城下の脇に駅が置かれることにより，駅周辺から城下町にかけて白石市の中心を担う市街地の景観が形成されています。

また，柴田町の四保山や村田町，川崎町においても，広域交通の要衝として，丘陵部に山城を配し，ふもとに城下が整備されるなど，地形条件を活かした都市が築かれることにより市街地が形成され，現在でも町割りの名残を示す道筋や町場の景観を通してその歴史性を見ることができます。

２）水運・陸運による流通で栄えた商業地

仙南地域は，近世には奥州街道，笹谷街道等の広域交通網が交差するとともに，阿武隈川による水運等，水運・陸運の両面から広域交通の利便性の高い地域で，現在でも東北本線等の鉄道網や福島・宮城・山形を結ぶ国県道が充実している地域です。

村田町は，この広域交通の地理的特性を活かし，かつて紅花などの売買による流通で栄えた商家町に由来し，今でも店蔵と門を持つ建物が建ち並ぶ歴史的な街並みが継承されています。近代化に伴い，その周辺に公共施設等の立地が進み，商家町として栄えた歴史性を継承する町場とその周囲により，村田町の中心を担う市街地景観が広がっています。

丸森町や角田市は，阿武隈川の水運による流通上の拠点となる町場や中継地として栄えた歴史を有する町です。現在では，水運の機能は鉄道に代わり失われており，丸森町には川湊の痕跡と，水運に代わるライン舟下りが行われているものの，川との関わりは僅かになっています。しかし，それぞれの市街地内には，水運で栄えた歴史を今に伝える店蔵等の歴史的な建物が残っており，その歴史性を緩やかに継承した市街地景観が形成されています。

３）かつての街道の往来を支えた宿場町の風情を残す町場・集落地

仙南地域には，近世に東北の大動脈である奥州街道，現在の仙台市と山形市を結ぶ笹谷街道（紅花街道・羽前街道も含む），福島県から宮城県を経由して山形県を結ぶ七ヶ宿街道が整備され，それぞれに数多くの宿場町が形成されました。

なかでも大河原町の中心部は，奥州街道の大河原宿に由来し，今でもかつての街道であった通り沿いには宿場町の名残をとどめる建物等が見られます。大河原町は，この宿場町を中心に，街道が担った交通機能が国道や鉄道へと変わったことに合わせ，駅周辺や国道沿いへと市街地が広がり，現在の市街地景観が形成されています。

その他，奥州街道の宿場町としては，白石市の白石宿や柴田町の槻木宿等も形成されましたが，いずれも近代化に伴う市街化の過程でその面影を失い，今では景観からその特徴を見つけることは難しくなっています。

七ヶ宿町は，蔵王連峰の山間に位置し，町内をかつては七ヶ宿街道が通り，その名前の通り７つの宿を有していました。街道の道筋は現在の国道へと変わる中，ダム整備に伴いかつて宿場町であった集落１地区は失ってしまうものの，その他の集落は，生活様式等の変化により街並みは緩やかに変化しつつも，街道と点在する集落地の関係は維持され，街道沿いの町らしい景観が継承されています。

▲掘割と武家屋敷地（白石市）

▲街道沿いの宿場町の名残（大河原町）

▲紅花で栄えた蔵の街並み（村田町）

▲阿武隈川ライン下り（丸森町）

３．景観形成に係る課題

（１）景観形成のための３つの視点

宮城県全域を対象とした景観づくりの基本方針を示す「宮城県美しい景観の形成に関する基本的な方針」では，下に示す３つの美しい景観形成に関する基本目標を定めています。

宮城県美しい景観の形成に関する基本的な方針における基本目標

- **豊かな景観資源としての自然，歴史，文化を保全し継承していくために，宮城の個性を表徴する景観を「まもる」**
- **地域の特性を生かし，個性ある景観を創造していくために，快適で魅力ある景観を「つくる」**
- **県民意識の醸成と参加による景観づくりを育成していくために，景観形成を支える意識を「育てる」**

このように，景観形成について考えていくには，景観を構成している地域の風土やそれをつくり出す自然的，歴史的，文化的な景観構成要素を「まもる」視点，地域の風土を守りながらも，より魅力的な景観を「つくる」視点，住民や企業等の景観づくりに対する意識を「育てる」視点が重要となります。

（２）仙南地域における景観形成に係る課題

仙南地域の景観特性及び上記（１）を踏まえ，仙南地域における景観形成に係る課題を下記のとおり整理します。

① 「まもる」ための課題

課題１：蔵王連峰を中心に形づくられる自然景観の保全

蔵王連峰の山並みやその活動によって形成されてきた多様な自然景観は，仙南地域の景観を形成する土台となるものです。また，その美しい景観は，古くから蔵王信仰とともに人々の心の拠り所になるだけでなく，広く訪れる者を魅了し地域に賑わいをもたらすなど，地域のみならず県民共有の資産と言えます。そのため，気候の変化による影響が懸念されるものの，蔵王連峰を中心とする自然景観を大切に保全し，残していくことが重要です。

▲冠雪の蔵王連峰

▲水面と蔵王連峰

課題２：仙南の自然とともに生きる人々がつくる景観の継承

蔵王連峰の自然からの恵みを享受し発展してきた生業や，蔵王連峰の自然とともに暮らしてきた人々の営みは，仙南地域の景観をつくり出してきた重要な景観構成要素となっています。蔵王連峰の麓に広がる田畑や自然を生かした公園などは，地域の人々の営みによって支えられ，周辺の景観と一体となって一つの景観をつくり出しています。そのため，これらの景観を残すためには，仙南地域全域や一つの景観をつくり出しているまとまりにおいて，人々の営みを絶やさずに地域社会の維持も図りながら，後世に受け継いでいくことが重要です。

また，人々の生活とともにつくられた歴史的な建造物等や祭りなどの活動も景観を構成する大きな要素です。このような景観も継承されるよう，受け継いでいく必要があります。

▲田園風景と蔵王連峰

▲菜の花畑と蔵王連峰

②「つくる」ための課題

課題３：仙南地域の魅力を高める景観づくり

歴史的文化的な街並みや人々が築き上げ，日々の生活の魅力を高めている公園等の景観は，時間の経過や人々の活動により，その魅力が失われていくことがあります。そのため，適正な維持管理や景観を阻害する要素を排除することなどにより景観を損なわないようにするとともに，さらに魅力を高めるような取組も大切です。

また，「蔵王」の景観としての魅力を高めるには，仙南地域全体で調和がとれた景観を形成していく必要があります。そのため，広域圏で一体となった景観づくりの方針やルールの下，地域が連携して景観づくりに取り組むことが重要です。特に，複数市町に跨る鉄道，幹線道路や河川沿いは，線的に統一した方針やルールを定めることが重要です。また，視点場となる公園等の空間，休憩スペース，道路，歩行者路等からの見え方について，移動の有無や移動の速さを考慮して視対象となる景観と一体となった景観づくりを進めることが重要です。

▲七ヶ宿公園

▲みちのく杜の湖畔公園

課題４：景観の活用による地域の活性化

景観は，人々の賑わいにより支えられる面もあります。また，外から訪れる人々に地域の景観の魅力をあらためて気付かされることもあります。しかし，その魅力が十分に伝わらないと，訪れる者も少なくなり，その価値を十分に活かせなくなってしまいます。そのため，賑わいを創出する「仕かけ」や景観の魅力を積極的に発信することにより交流人口の増加を図るなど，地域の活性化に取り組むことが必要です。また，来訪者に効果的に仙南地域の魅力を訴えるために，地域全体が連携して取り組むことが重要です。

▲桜まつりの賑わい　※大河原観光物産協会提供

③「育てる」ための課題

課題５：景観価値の認識と社会的意識の向上

仙南地域では蔵王連峰を中心とした魅力的な景観が見られるものの，必ずしも住民がその魅力を認識していないことや，社会生活上の快適性や効率性を優先するあまり，魅力的な景観が損なわれることなどが懸念されます。そのため，魅力的な景観を失うことなく継続的に景観形成が図られるよう，景観形成への意識を醸成していくことが重要です。

▲景観に関する普及活動の例

課題６：景観形成のための体制づくりと気運の醸成

良好な景観を継続的にまもり，つくるためには，景観形成に関する共通認識の下，行政・住民・企業等が連携しながら進めていくことが不可欠です。そのため，住民・企業が景観形成に係る取組に参画するための仕組み・体制づくりが必要です。また，そのためには地域住民が景観づくりに参加しやすい気運を醸成することが必要です。

▲景観まちづくりのためのワークショップ等
（みやぎ景観アドバイザー制度の活用例）

第２章　景観形成に係る基本理念と方針

１．基本理念

仙南地域の景観の現況や課題を踏まえ，景観づくりの基本理念として，次の３つを掲げます。

（１）蔵王連峰の山岳景観を象徴とした山や川が織り成す自然景観と，仙南地域の風土とともに人々が生きてきた営み，歴史・文化が一体となってつくり出している景観は，仙南地域らしさを表徴するものであり，その姿が失われないよう保全，継承します。

（２）仙南地域の景観は，地域に賑わいをもたらすものであり，その魅力を高めるよう景観づくりを進めるとともに，地域の活性化にも資するようその活用を図ります。

（３）蔵王連峰や阿武隈山地等の山岳及び阿武隈川や白石川等の河川とともに育まれた人々の営みがつくり出す景観は，仙南地域らしさを表わすものであるという認識の下，その誇りを受け継ぎながら，景観形成に取り組みます。

２．基本方針

景観づくりの基本理念のもと，次の６つの基本方針を定めます。

（１）「まもる」ための基本方針

基本方針１：地域の共有資産である蔵王連峰を中心とする自然景観を保全します

蔵王連峰を中心とする自然景観は，古くから地域の人々の営みとともに大切に守られてきました。その美しく雄大な景観は地域に住む人々だけではなく，訪れる者も魅了するものとなっており，県全体の共有の財産といえます。これら自然景観の保全には，地域全体で共通した認識の下，市町の区域を越えて，景観形成に取り組んでいきます。

▲蔵王の自然による代表的な景観である滑津大滝

▲三階滝

基本方針２：地域の人々の営みの中で長きに渡りつくられてきた景観を継承します

山間部の牧場や果樹園，河川周辺の田園などの生業，気候風土に適応した生活など，蔵王連峰の自然環境を土台に，人々の営みがつくってきた景観は，仙南地域をより魅力的なものにしています。また，地域のどこからでも見ることができる蔵王連峰の姿は，地域の人々の生活の背景として，受け継がれてきました。これらの景観を形づくる人々の生業や営みを仙南地域全体，またはひとまとまりの景観を形成する広範囲において一体的に継承していくことが必要であり，そのための支援をしていきます。また，蔵王連峰の美しい姿が望める魅力的な眺望など，仙南地域の特徴が顕著な景観については，景観形成のルールをつくることなどにより保全・継承を図ります。

▲人々の営みによる桜並木と蔵王

▲人々の営みによる田園と蔵王

（２）「つくる」ための基本方針

基本方針３：仙南地域に調和した魅力ある景観を創出します

長い歴史を経て仙南地域に受け継がれてきた自然や街並みは，地域の成り立ちを示す個性的な景観です。これらの景観の魅力を損なうことなく，より一層引き出すことができるよう景観づくりに取り組んでいきます。同時に，蔵王連峰や阿武隈川・白石川，道路等については，一体的な景観づくりを図ることができるよう，そのルールについて考えていきます。また，視点場となる公園，休憩スペース，道路や歩行者路については，視対象となる景観をより魅力的に見ることができるような空間づくりに取り組んでいきます。

景観を構成する上で大きな役割を占める建築物や工作物については，周囲の景観と調和し，また魅力向上につながるよう，整備や管理に取り組むとともに，景観を阻害する要素となる工作物や広告物を抑制するなど，よりよい景観の形成を図っていきます。

基本方針４：景観の魅力を活かし，地域の活性化につながるよう活用します

仙南地域の大切な景観を地域の中で受け継いでいくことはもちろん，来訪者にも喜ばれるよう景観の形成を図ります。そのため，景観の魅力を効果的に発信するとともに，地域住民の考え方を踏まえて景観の活用のための仕かけづくりをするなど，地域が一体となった景観まちづくりに取り組み，交流人口の増加を図っていきます。

また，地域の賑わいを創出するため，景観を活かした地域の行事や祭事等，活性化につながる景観の形成を図ります。

▲自然景観を活かす仕かけづくりの例
（材木岩周辺）

▲景観を活かした行事の例
（鬼小十郎祭り）

（３）「育てる」ための基本方針

基本方針５：景観価値を認識し，共有の資産であるという社会的意識を育成します

仙南地域の景観を共有財産として受け継いでいくために，地域住民が景観の価値を認識し，誇りを持って景観づくりに関わっていくよう，意識の育成を図ります。また，ゴミの散乱や周囲に調和しない建造物の設置等，景観阻害要因を発生させないための意識づくりを行っていきます。

▲景観形成のための取組例（白石市清掃ボランティア）

基本方針６：景観形成のための体制づくりと気運の醸成を図ります

行政･住民･企業等が連携しながら景観づくりを進めていくために，それぞれの役割を明確にするとともに,景観形成のルールづくりや推進体制の構築,県による継続した景観アドバイザーの派遣，先進事例・景観形成手法の紹介などにより，意識の高揚，気運の醸成を図っていきます。

▲広域連携体制の例
（仙南地域広域景観計画策定協議会）

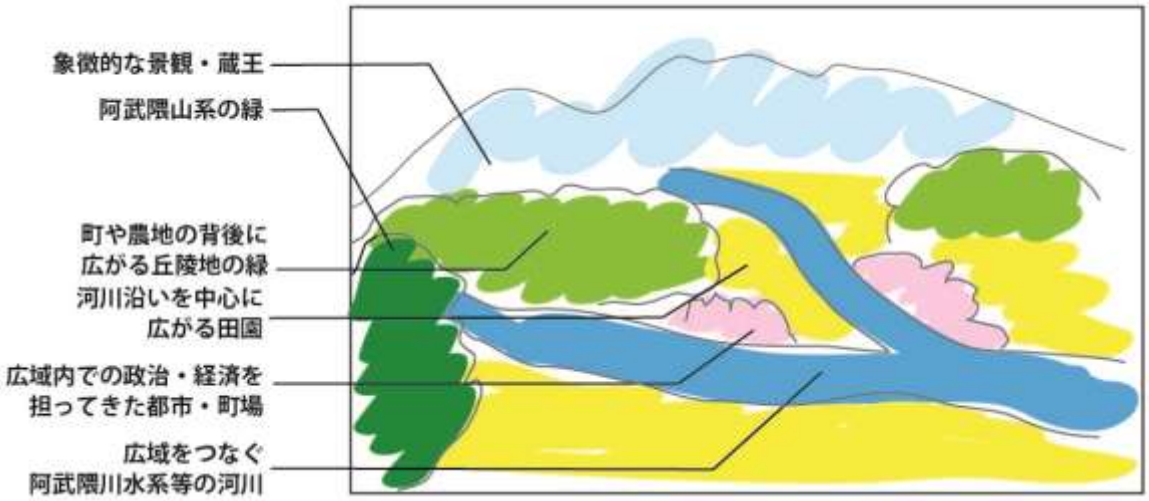
▲景観まちづくりのためのワークショップのコーディネーターや勉強会の講師の派遣

▲市町村を対象とした先進事例の紹介（講演）　白河市（左）　中津川市（右）

３．仙南地域の景観構造

広域的観点から見た仙南地域の景観の特性を踏まえ，景観構造として，仙南地域の景観構造について，そのイメージ（概念）と（空間）構造により，その特徴を整理します。

（１）仙南地域における広域景観のイメージ



仙南地域の広域景観としての概念は，大きく５つの要素からなると考えます。

仙南地域を表徴する最も広大な要素として，象徴的な景観地である蔵王連峰や阿武隈山地の緑（樹林地等）が挙げられます。これはいわゆる山地景観として，仙南地域を包み込むようにある景観要素です。

また，蔵王山麓や阿武隈山地の延長に位置する丘陵地の緑（樹林地等）が挙げられます。これらは，町や農地の背景となる身近な緑としての景観要素です。

阿武隈川や白石川等の河川沿いに広がる田園も仙南地域を表徴する要素として挙げられます。広がりのある平地における営みがつくり出す田園（農地と集落）は，仙南地域の平野部における広域景観を特徴づける大きな景観要素です。

さらに，限られた平野部に形成された都市・町場が挙げられます。古代から人々の営みが続く仙南地域において，中世から近世にかけて政治・経済を担ってきた都市・町場は，仙南地域内の交通ネットワーク上に分布しており，時代とともにその役割は変化するものの，仙南地域の市街地を特徴づける重要な景観要素となっています。

最後に，これらをつなぐ軸（ネットワーク）として，阿武隈川水系等の河川が挙げられます。空間的な連続性のみならず，歴史的な観点からは機能的にも広域を結ぶ重要な役割をはたしてきた景観要素であり，仙南地域における水辺を特徴づける景観要素となっています。

（２）仙南地域の広域景観の構造

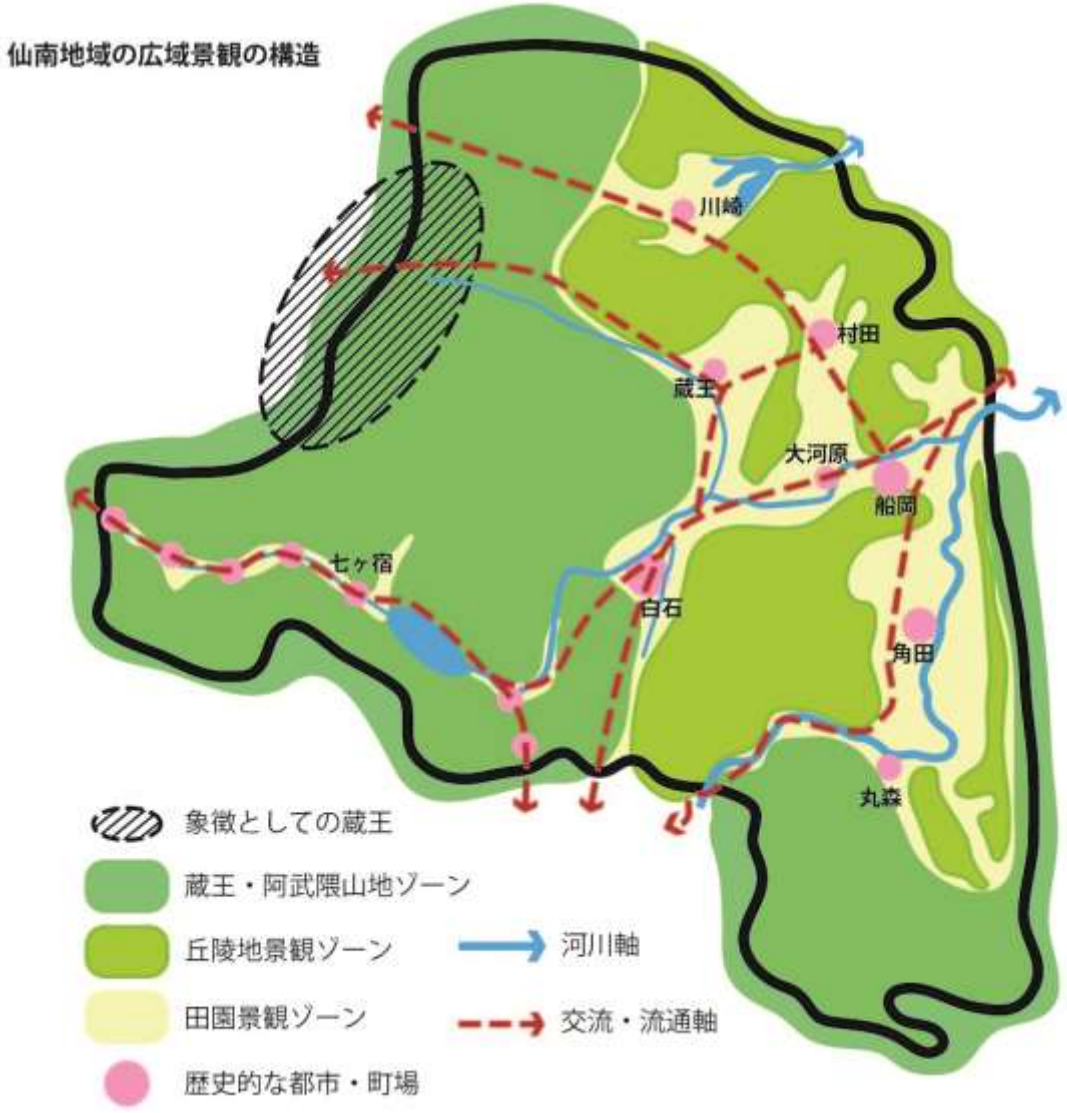
仙南地域の広域景観のイメージを空間構造として図示したものが，下の図になります。

蔵王連峰（奥羽山脈）や阿武隈山地からなる「蔵王・阿武隈山地ゾーン」が仙南地域を包み込み，その中に心的・空間的象徴性を持つ蔵王連峰が位置し，仙南地域のどこからでもその山容を眺めることができています。

蔵王山麓や阿武隈山地の延長には「丘陵地景観ゾーン」が広がり，特徴ある農の営みや歴史的な山城等の景観が見られます。

仙南地域内には，阿武隈川や白石川，松川等の「河川軸」が通り，その周辺の平地には「田園景観ゾーン」が広がり，豊かな農の営みが広がっています。

この平野や河川軸を活かし，「歴史的な都市・町場」が形成され，これらを核に現在の市街地が形成されています。この市街地間を結ぶ交通網として，かつての街道から現在の国県道や鉄道網が整備されることにより「交通・流通軸」が仙南地域内外をネットワーク化し，仙南地域における人々の営みを支えています。



▲仙南地域の広域景観の構造図

▼（参考）見えない景観の構造／地域の文化と景観のまとまり（領域性）

景観構造には，地形や土地利用をベースとした空間的な観点から見えてくる景観的な領域（景域）と，人々の営みの中で育まれる文化として見える景観を支える目に見えない領域性（コミュニティの単位や人や集落・地区間におけるつながり等）がつくり出す景観のまとまりがあります。

地域の文化には，その地域内で慣習として行われている行事や，地域独自の季節ごとの行事・イベント，年末年始やお盆・お彼岸等の特殊な習慣などが挙げられます。これらは行事や祭礼を行う場には，それぞれ市街地や集落としての景観のまとまりが見られるとともに，その行事等を行う人々のまとまりやつながり（例：コミュニティの単位等）がその景観形成にはとても重要な意味を持っており，そこには一定の領域性があります。そのため，この目に見えづらい領域性もまた，空間的な領域性と合わせ，そのまちらしい景観を形づくる見えない景域を構成する一部となっています。

地域独自の年中行事や慣習等は，時代により物的な目に見える景観が変化する中で，その地域としてのまとまりや領域性を確認することができる１つの要素であり，地域ごとの愛着や誇りを共有する景観まちづくりの単位とも大きく関係します。地域の景観づくりに取り組む際には，単に目に見える環境のみで考えるのではなく，これら見えない領域がつくり出す景観のまとまりについても目を向ける必要があります。

なお，これらは，地域ごとに細かく分かれ，その単位により重層性も持つものです。今後，本計画において広域景観の意識共有が図られ，地域の景観づくりに取り組む段階においては，各地域で文化・慣習を踏まえながら，地域らしさを大切にする景観の形成を図っていくことが望まれます。

【年中行事と地区の関係（例）】

●金津七夕（角田市　金津地区）

藩政時代から続く「金津七夕」は，金津地区の６歳から１５歳までの子どもが「カラオクリ」と呼ばれる竹飾りを持って地区内を練り歩く民俗行事です。これは，星祭りである七夕とは別に，邪霊を鎮送する送り行事と考えられており，県の指定無形民俗文化財（風俗慣習）となっています。

▲金津七夕の様子

●小山田やすとこ（大河原町）

やすとこは，米沢城下で婚礼の際の祝宴に唄われていたもので，仙台から大河原の小山田に伝わりました。戦前は絣（かすり）の振袖で踊られていましたが，戦後になると田植え時の早乙女姿で踊られるようになり，町の指定無形民俗文化財となっています。

▲小山田やすとこ

４．ゾーン別の景観形成方針

仙南地域の広域景観の構造をゾーン別に整理し，６つの基本方針に基づき，それぞれのゾーンに対する景観形成の方針を定めます。

（１）蔵王・阿武隈山地ゾーン

○景観を形成するエリア

・蔵王・阿武隈山地の山並み景観を構成する高山地・丘陵地及び森林
・阿武隈川，白石川の渓谷部及びその周辺
・大きな水面を湛えるダム湖及びその周辺

○景観形成方針

蔵王連峰周辺の自然環境の保全

・蔵王連峰の景観を特徴づける地形や植生を保全するため，自然公園等に係る規制と調整を図りながら，地形改変や生態系への影響のある行為をできる限り避けます。
・森林の伐採を最小限にとどめるとともに，保全のための造林や保育を適切に行います。

眺望景観の保全

・「みやぎ蔵王三十六景」等の蔵王連峰への優れた眺望景観については，眺望を阻害する建造物等の適切な誘導や除去により保全を図ります。

蔵王の魅力を享受するための環境づくり

・蔵王の特徴ある景勝地等については，訪れる者がその魅力を享受できるよう環境を整備します。
・スキー場やキャンプ場，公園，宿泊施設等のレクリエーション施設については周辺景観との調和を図りつつ，賑わいを創出するための取組を行います。

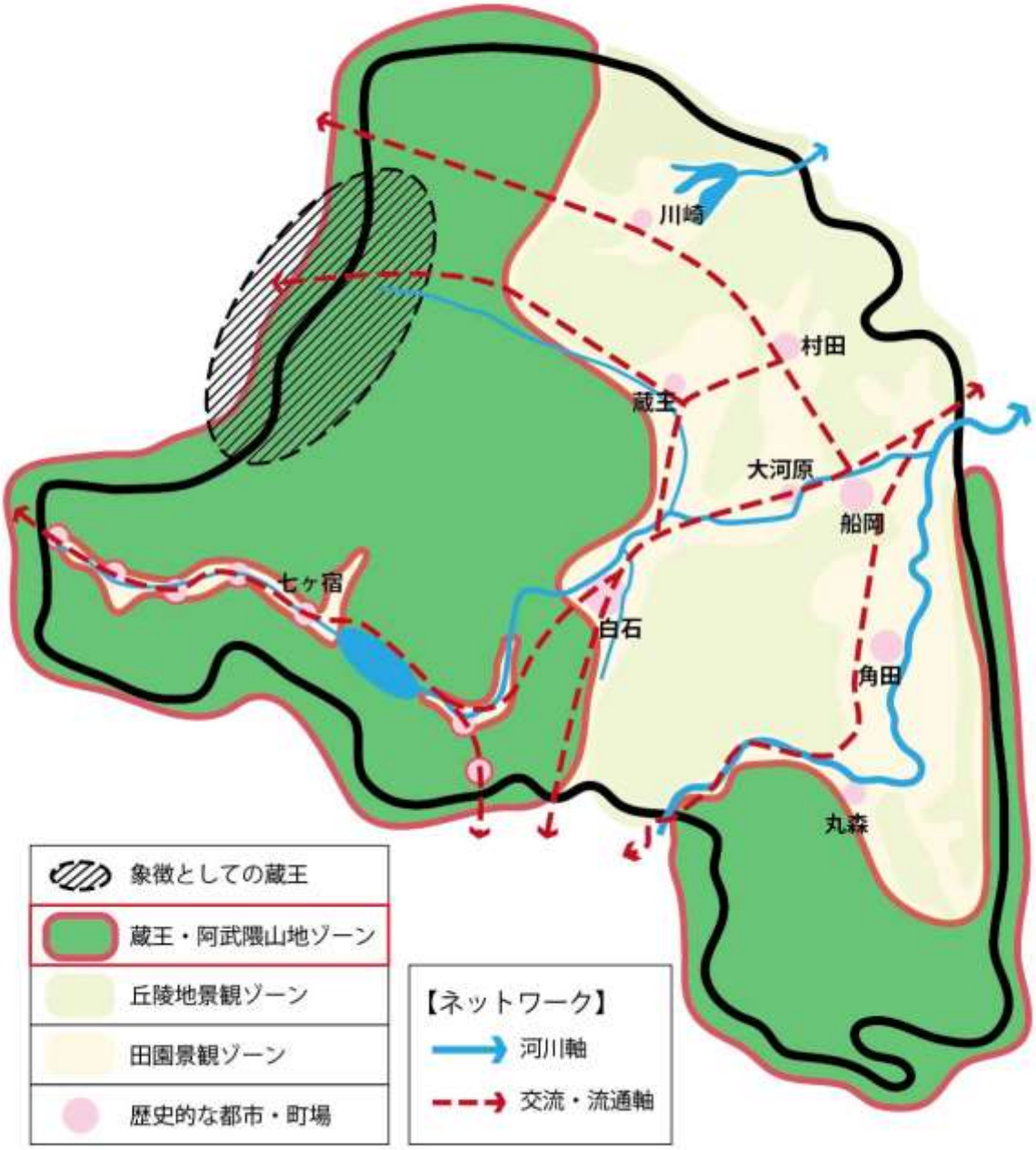
自然を保全するための人々の関わり

・蔵王における景観づくりの意義を伝えるために，幼少期から蔵王の自然に触れ合う機会を設けるとともに，蔵王を中心とした仙南地域の歴史と文化を伝え，意見交換を行う場を積極的に設けることで景観に対する誇りの醸成を図ります。

自然を活用したレクリエーション空間の適正管理

・山間部や河川敷等に形成される自然を活用したレクリエーション空間については，周辺景観と調和したものにするとともに，賑わいを創出するための取組を行います。

仙南地域の広域景観の構造



▲仙南地域の広域景観の構造図

（１）蔵王・阿武隈山地ゾーン

（２）丘陵地景観ゾーン

〇景観を形成する範囲

・蔵王山麓に展開する果樹や畜産の生業
・蔵王・阿武隈山地ゾーンよりも低平な丘陵地
・平野部の際に迫る里山

〇景観形成方針

<u>丘陵地を彩る生業による景観の保全</u>

・蔵王山麓の気候を生かした果樹園や畜産等の生業による景観を保全するために，生業の継承を図るとともに，観光客の集客による賑わいを創出します。

<u>蔵王の自然に対応し形成された集落景観の保全</u>

・蔵王の厳しい自然に対応するために形成されてきた特徴的な集落景観を保全するために，樹林等を保全するとともに，伝統的な家屋外観の承継に努めます。

<u>人々の営みを継承するための意識醸成</u>

・人々の営みより育まれてきた景観が，日々の生活をまもり，魅力を高めていることや,それそのものの楽しみについて伝えるための機会を設けます。

<u>視点場の維持・魅力向上と発掘</u>

・公園，休憩スペースや道路，歩行者路といった視点場については，視対象となる景観に配慮した空間の維持管理や魅力を高める空間づくりを行います。
・行政間や地域住民との意見交換の中で，仙南地域の景観をより美しく見ることができる視点場を発掘します。

▲仙南地域の広域景観の構造図

（２）丘陵地景観ゾーン

（３）田園景観ゾーン

〇景観を形成する範囲

・平野部や河川沿いの低地に広がる田園

〇景観形成方針

<u>広がりのある田園景観の保全</u>

・蔵王の恵みである川の流れによって形成された平野部に広がる田園景観を保全するために，稲作の継承を図ります。

・農業振興地域等に係る規制と調整を図りながら，農地を確保するとともに，田園景観を阻害する建造物等の規制誘導を図ります。

・農業施設等については，周辺景観に調和した整備を行うとともに，適切な維持管理を図ります。

<u>蔵王の自然に対応し形成された集落景観の保全</u>

・蔵王の厳しい自然に対応するために形成されてきた特徴的な集落景観を保全するために，樹林等を保全するとともに，伝統的な家屋外観の承継に努めます。

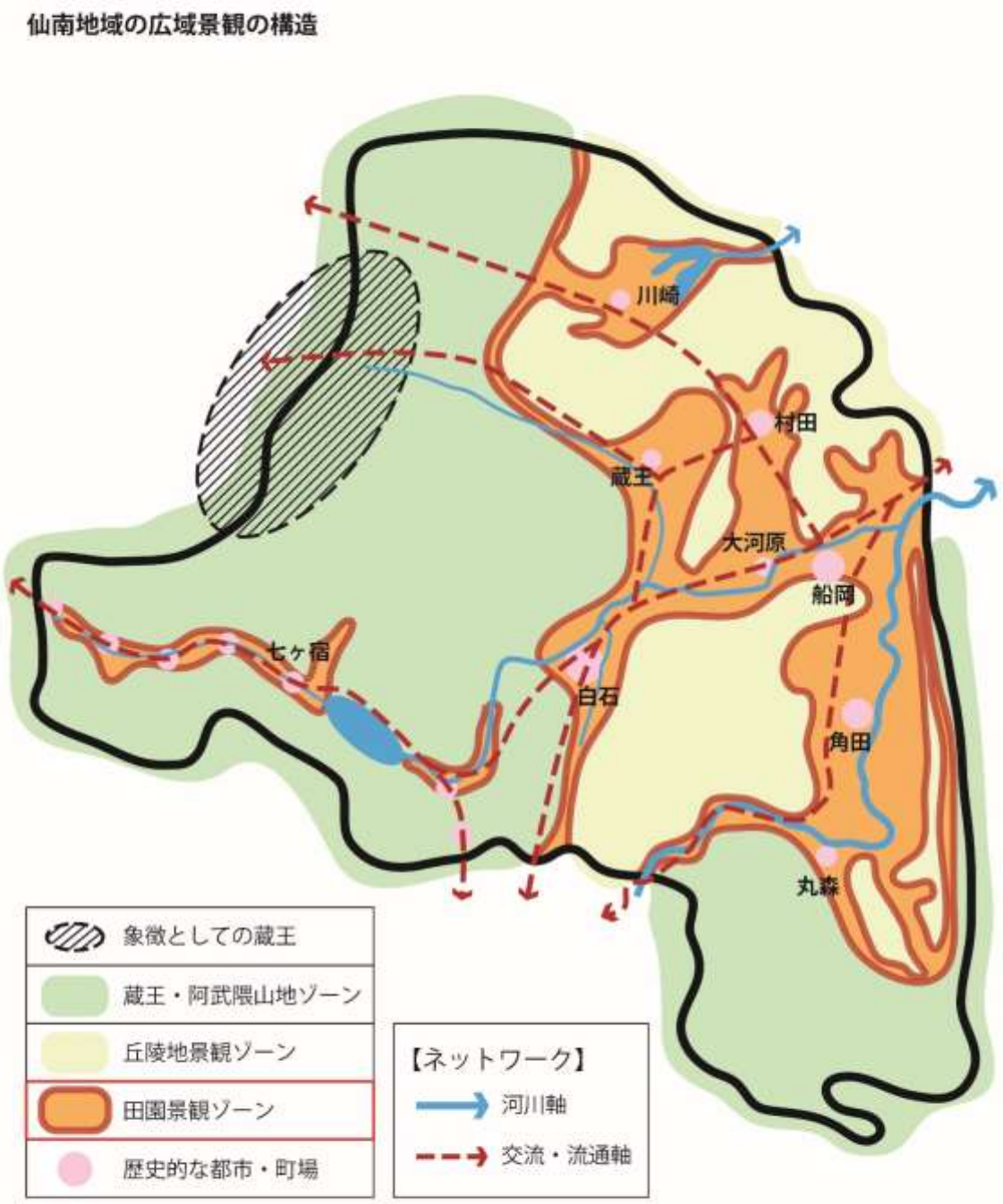
<u>視点場の維持・魅力向上と発掘</u>

・公園，休憩スペースや道路，歩行者路といった視点場については，視対象となる景観に配慮した空間の維持管理や魅力を高める空間づくりを行います。

・行政間や地域住民との意見交換の中で，仙南地域の景観をより美しく見ることができる視点場を発掘します。

<u>人々の営みを継承するための意識醸成</u>

・人々の営みより育まれてきた景観が，日々の生活をまもり，魅力を高めていることや，景観そのものの楽しみについて伝えるための機会を設けます。



▲仙南地域の広域景観の構造図

（３）田園景観ゾーン

（４）歴史的な都市・町場

〇景観を形成するエリア

・旧街道沿道に形成された城下町や宿場町等の街並み
・古くから温泉の利用と観光で発展してきた温泉街
・地域の信仰により受け継がれてきた寺社仏閣及びその周辺
・仙南地域の文化を発信するイベント空間

〇景観形成方針

<u>歴史的街並みを活かした景観形成</u>

・城下町，商家町，川湊，宿場町，温泉地といった仙南地域の歴史文化を表徴する街並み景観の保全や，各地区の景観特性に即した景観整備，規制誘導を図り，歴史的街並みを生かした景観形成を図ります。

<u>信仰の場の保全</u>

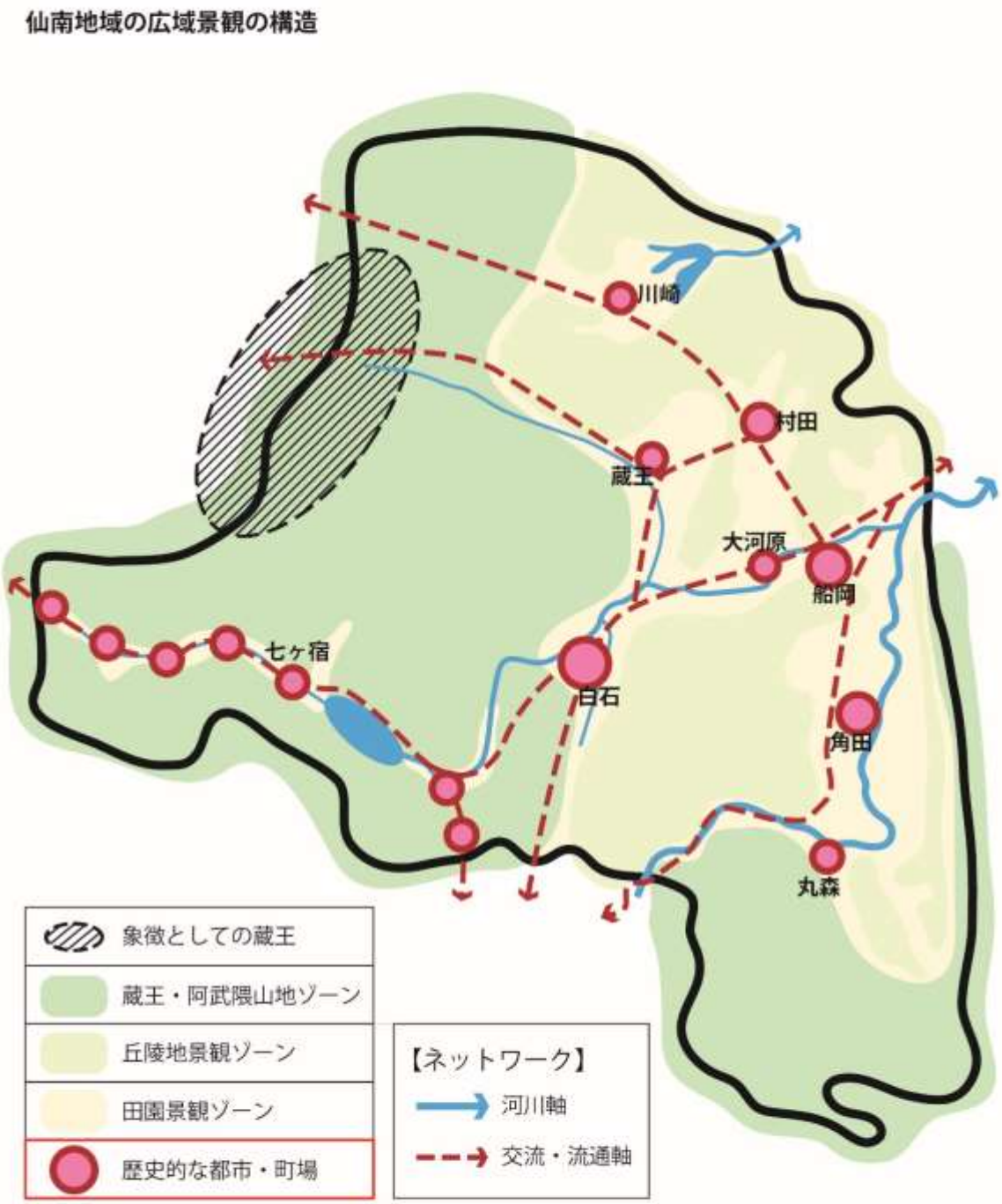
・蔵王信仰をはじめとした地域の信仰等の場となる寺社仏閣やその周辺の景観を保全するために，各地区の景観特性に即した景観整備，規制誘導を図ります。

<u>イベント空間の保全</u>

・仙南地域の文化を通じて魅力を発信するイベント空間となっている場所については，適正な維持管理を図るとともに景観整備により魅力を高めます。

<u>景観づくりへの住民参加</u>

・住民の参加による街並みの美化や景観形成を進められる環境を整えます。



▲仙南地域の広域景観の構造図

（４）歴史的な都市・町場

（５）ネットワーク

〇景観を形成するエリア

・阿武隈川・白石川の河川軸

・高速道路，国道，県道などの交流・交通軸

〇景観形成方針

①河川軸

河川等の公共施設周辺の適切な管理

・河川の構造物については，周辺の景観に調和したものとし，適切な管理により景観を阻害しないよう図ります。

自然を活用したレクリエーション空間の適正管理

・山間部や河川敷等に形成される自然を活用したレクリエーション空間については，周辺景観と調和したものにするとともに，賑わいを創出するための取組を行います。

②交流・流通軸

道路等の公共施設周辺の適切な管理

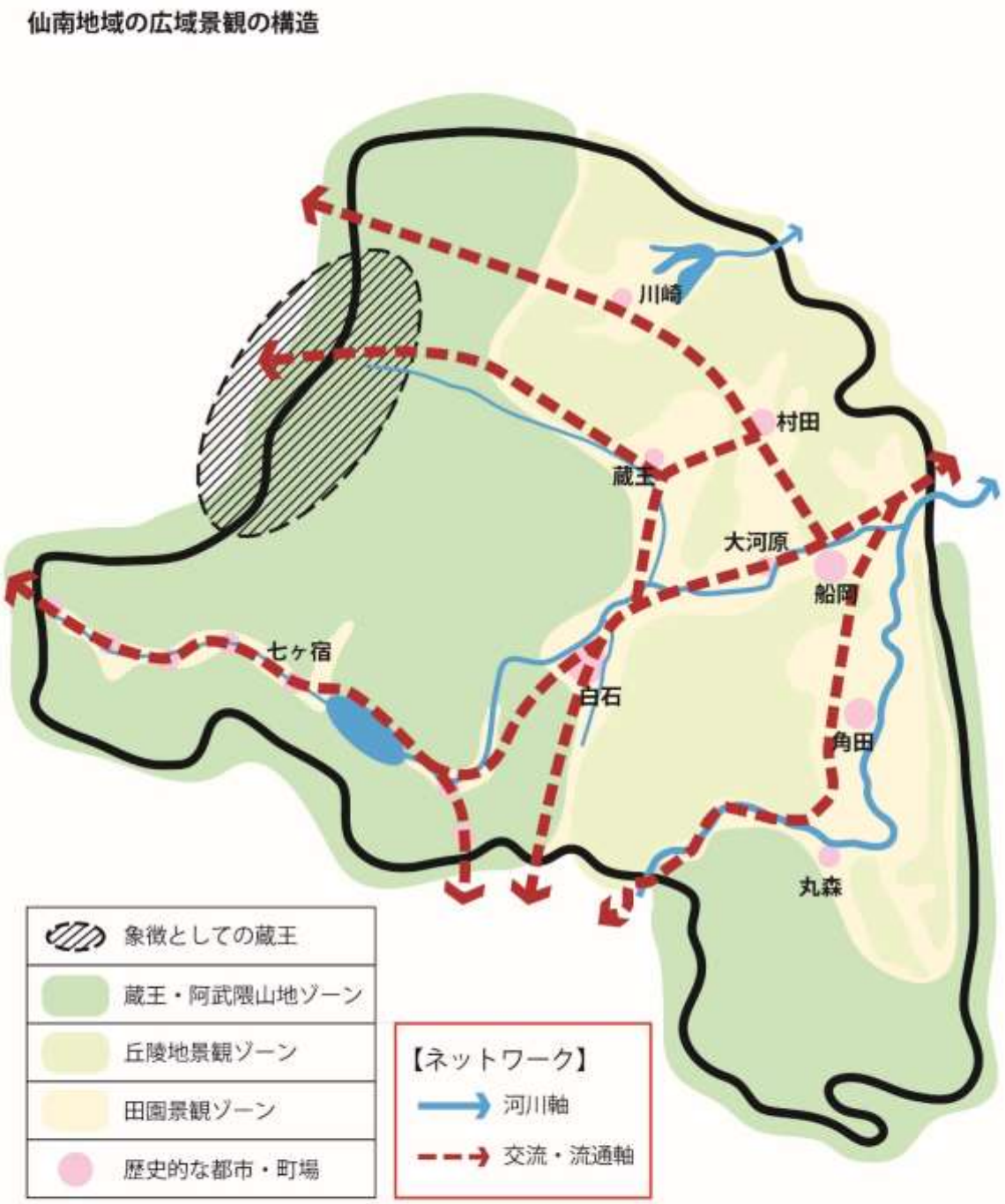
・蔵王連峰周辺の道路の構造物については，周囲の景観に調和したものとし，適切な管理により景観を阻害しないよう図ります。

広域内をネットワーク化する主要な道路における沿道景観の形成

・広域内をネットワーク化する道路の沿線については，周囲の景観を阻害しないよう建築物，工作物，屋外広告物等について適切な誘導を図ります。

街の玄関口となる鉄道駅前の景観形成

・鉄道駅前の景観については，街の玄関口としてふさわしい景観形成を図ります。



▲仙南地域の広域景観の構造図

（５）ネットワーク

第３章　重点的な取組

１．景観重点区域における景観形成に向けて

（１）景観重点区域について

仙南地域の景観は，第１章２．で示したように，広域的観点から見た際には，大きく３つの景観特性を持っています。

特性１	蔵王連峰を中心に広がる雄大かつ象徴的な自然景観
特性２	仙南の風土とともに生きる人々の営みがつくり出す景観
特性３	水陸交通の要衝を担った歴史性を継承する都市・町場の景観

この３つの大きな特性の総体が，“仙南地域らしさ”を感じさせる景観を形づくっているといえます。

複数の市町からなる広域における景観形成には，広域全体を対象にその景観の保全・形成に取り組むケースもありますが，本県では，“仙南地域らしさ”を活かした景観の取組には，広域的観点から見える３つの景観特性を象徴的に目にすることができる地域について，県・市町・住民・事業者の間において大事なエリアであることを共有し，継続的な取組につなげることが重要であると考えます。

そこで，本計画では，“仙南地域らしさ”を象徴する地域を抽出し，当該市町と抽出した地域の状況について協議を重ねた上で，広域的観点から重点的に景観形成に取り組む区域について「景観重点区域」を選定します。

この景観重点区域では，景観法に基づく景観計画を始め，各地域の実情に応じた景観形成の取組を進めていくものとします。

なお，この広域的観点から重要である「景観重点区域」の選定をきっかけに，今後は，各市町が景観行政団体となることにより，地域の人々と一体となった持続的かつきめ細かな景観まちづくりの取組へと展開するよう，県と市町が協力・連携を図っていくものとします。

３つの景観特性から“仙南地域らしさ”を象徴する地域
(P.66～71 該当エリア)を抽出

↓

当該市町と抽出した地域の状況について協議

↓

該当エリアの地理的まとまりを考慮し，広域的観点から重点的に
景観形成に取り組む区域を「景観重点区域」に選定

▲景観重点区域の抽出フロー

２．景観重点区域の選定

（１）仙南地域において景観特性を代表するエリアの抽出

３つの景観特性ごとに，その特性を代表する景観地について抽出・整理します。

景観特性		該当エリア	景観概況
特性1 蔵王連峰を中心に広がる雄大かつ象徴的な自然景観	１）蔵王火山の活動による雄大かつ特徴的な地形美	①蔵王火山及び蔵王エコーライン（蔵王町）	・御釜を中心とする地蔵山，熊野岳，刈田岳などからなる蔵王火山には，複雑な地形がつくり出す特徴的な景観が広がる。蔵王町のジオパークの取組において「蔵王火山ジオサイト」としてコアを担う景観地である。 ・エリア内には，この特徴的な景観を楽しめる観光ルートとして，蔵王エコーラインが整備され，多くの人が訪れる蔵王を代表する景観地である。
		②長老湖（七ヶ宿町）	・不忘山の裾野に位置する長老湖は，かつては小さな沼であったが，発電用に拡張され，現在では，やまびこ吊り橋が東北随一の吊橋として知られ，吊橋から不忘山への風光明媚な眺めが，広く知られる景勝地である。
	２）神宿る地としての象徴性と山容への眺め	―	※仙南地域のあらゆる場所から山容への眺めはあり，象徴的な場所を設定するのは難しい。景観形成の方向性として，他のエリアにおける蔵王連峰への眺めという観点を付加することとする。
	３）水資源を支える豊かな自然環境	③七ヶ宿湖（七ヶ宿町）	・白石川の上流に整備された水源地であるダム湖で，周囲には自然休養公園や道の駅等の来訪者施設が整備され，自然景観をレクリエーションと共に楽しめる景観地である。
		④釜房湖（川崎町）	・名取川の上流に整備された水源地であるダム湖で，周囲にはみちのく杜の湖畔公園が整備され，自然景観をレクリエーションとともに楽しめる景観地である。

景観特性		該当エリア	景観概況
特性1 蔵王連峰を中心に広がる雄大かつ象徴的な自然景観	**４）阿武隈川や白石川等による豊かな水を湛える河川景観**	⑤阿武隈川沿い（丸森町）	・阿武隈川が宮城県に入る地点で，蛇行しつつ徐々に川幅を広げる。広がりのある水面，蛇行とともに形成される瀬渕，両岸を結ぶ橋と，周囲の市街地や農村集落が一体となって，穏やかな河川景観を形成している。
		⑥阿武隈川沿い（角田市）	・阿武隈川が緩やかに蛇行を繰り返しながら，水面と河川敷，周囲の市街地や農村集落が一体となって穏やかな景観を形成している。特に，角田橋周辺では，河川敷の菜の花や桜並木が一体となり，春には遠く蔵王連峰が一体となった河川景観を形成している。
		⑦白石川沿い（大河原町～柴田町）	・阿武隈川との合流地点よりもやや上流に位置する白石川沿いでは，河川堤防に「一目千本桜」が整備され，広がりのある川の流れと遠くに見える蔵王連峰が一体となった河川景観を形成している。

景観特性		該当エリア	景観概況
特性2 仙南の風土とともに生きる人々の営みがつくり出す景観	1）高原から低地まで変化する地形に応じた多様な農の営み	①北原尾地区 （蔵王町）	・蔵王山麓の扇状地形が広がる中，開拓により牧場が整備され，蔵王の自然と酪農の営みが一体となった景観が広がっている。
		②松川沿いの農村集落 （蔵王町）	・蔵王連峰を源流として流れる松川沿いの段丘地では，果樹栽培が行われており，蔵王町から遠刈田温泉に続く県道沿いにおいて，果樹園と集落が連続する特徴ある農村景観を形成している。
		③高倉川沿いの農村集落 （角田市）	・高倉川の穏やかな流れと集落の人々によって大切に保存されている周辺の水田地帯，川岸に植えられた桜やその向こうにある農村集落と里山が一体となって，穏やかな農村景観を形成している。また，周辺地域には高蔵寺が鎮座し，付近に高倉農村公園が整備され，憩いの場となっているなど，多様な要素により豊かな表情の農村景観を形成している。

景観特性		該当エリア	景観概況
特性2 仙南の風土とともに生きる人々の営みがつくり出す景観	2）火山と水脈を利用した蔵王山麓の歴史ある湯治文化と温泉地	④小原温泉（白石市）	・蔵王山麓，白石川がつくり出す谷地形の中に形成された湯治場由来の温泉地で，川と木々が織り成す落ち着きのある景観を形成している。
		⑤鎌先温泉（白石市）	・蔵王山麓で古くから湯治場として栄えた温泉地で，山間の木々の中，路地と旅館が一体となり，かつての湯治場の面影を残す界隈性と，土産物として親しまれているこけし製造の文化が継承されている。
		⑥青根温泉（川崎町）	・蔵王連峰の山頂に最も近い温泉地で，丘陵地形のなか，歴史的な建造物である旅館と木々が織り成す落ち着きのある景観が形成されている。
		⑦遠刈田温泉（蔵王町）	・蔵王詣での拠点として栄えた町場と，旅館や温浴施設が一体となった，蔵王山麓における賑わいある町場の景観が形成されている。
	3）屋敷や農地を守る屋敷林や防風林が特徴的な農村景観	⑧笹谷街道沿いの田園地域（川崎町）	・かつての笹谷街道である国道沿いに広がる農村集落では，一定の間隔で防風林が立ち並ぶことにより，農地や集落を守っている，特徴ある農村景観が形成されている。
		⑨横川地区（七ヶ宿町）	・長老湖に隣接し，木地師集落により形成された山間の農村集落で，集落の通り沿いからは，家屋や農地，それらを守る防風林が一体となった山間の集落景観を形成している。

景観特性		該当エリア	景観概況
特性3 水陸交通の要衝を担った歴史性を継承する都市・町場の景観	1）地形を活かし整備された城下町の歴史と文化を継承した都市	①白石城下町（白石市）	・丘陵部には木造建築による白石城が建ち，城下には豊かな水を湛える堀や水路が巡る。武家地や町場の名残を残す城下町に由来する市街地景観が形成されている。
		②船岡城下町（柴田町）	・かつて山城が配された四保山が中央にそびえ，山麓から白石川沿いにかけて市街地が広がる。城下町の町割の痕跡や，町場として栄えた店蔵等の歴史的な建物が点在し，城下町由来の市街地景観が形成されている。
		③川崎城下町（川崎町）	・丘陵地に城址が残り，平野部に市街地が広がる。城下町の痕跡を残す要素は少ないものの，町場の道筋や街並みから，歴史的市街地の風情を今に伝えている。
	2）水運・陸運による流通で栄えた商業地	④角田市中心部（角田市）	・阿武隈川に面して市街地が広がる。かつての城下町の痕跡は市街地内の道筋に僅かに残る。水運の中継地として栄えた歴史は，市街地内に残る店蔵等から読み取れるが，現在は高い河川堤防により川とのつながりが失われている。
		⑤丸森町中心部（丸森町）	・阿武隈川の水運で栄えた商業都市に由来する市街地が広がる。かつての豪商の店蔵を活用した商店や水運に代わるライン下り等，歴史を活かした景観まちづくりが展開されている。
		⑥村田町中心部（村田町）	・紅花の取引などで栄えた商家町に由来し，店蔵と門が連続する特徴ある歴史的な街並みが維持されている。

景観特性		該当エリア	景観概況
特性3 水陸交通の要衝を担った歴史性を継承する都市・町場の景観	3）かつての街道の往来を支えた宿場町の風情を残す町場・集落地	⑦七ヶ宿街道と旧宿場町 （七ヶ宿町）	・山間に位置する七ヶ宿町の中央を貫くかつての七ヶ宿街道である国道を軸に，宿場町由来の集落が点在する。白石川の流れと木々，集落が一体となった穏やかな景観が形成されている。
		⑧奥州街道と宿場町 （槻木宿，大河原宿，白石宿） （柴田町，大河原町，白石市）	・仙南地域の大動脈であるかつての奥州街道沿いには，宿場町の名残を今に伝える街並みが残る。近代に入り，宿場町の脇には鉄道駅が配され，道筋も国道へと変化し，広がりのある市街地景観が形成されている。
		⑨笹谷街道と宿場町 （川崎町）	・川崎町の中央を貫くかつての笹谷街道である国道には，街道であった歴史を伝える松並木が連続する特徴ある通り景観が形成されている。

（２）景観重点区域

（１）で抽出された仙南地域の広域的な景観特性を代表するエリアについて，その地理的まとまりを考慮し，一体的な景観の形成を重点的に図る区域として，以下の１６地区について，本計画における「景観重点区域」に選定し，景観の保全・形成に向けた具体的な手法に関する考え方を示します。

<table>
<tr><th colspan="2">区域名</th><th>区域の考え方</th><th>景観形成の考え方</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td>蔵王火山周辺地区
（蔵王町）</td><td>・蔵王町が取り組む蔵王ジオパークにおけるコアを担う御釜を中心とした蔵王火山のエリアと，それらへのアクセスルートを担う蔵王エコーラインからなる区域。
（特性１－①）</td><td rowspan="2">・国定公園に指定され，貴重な自然景観の保全・活用が図られており，引き続き，自然公園としての保全・活用を図りつつ，今後，必要に応じて，関係機関と連携・協力しつつ，自然公園法の許可基準を踏まえ検討を行う。

▲御釜（蔵王町）</td></tr>
<tr><td colspan="2">
★写真位置</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2</td><td>長老湖・横川地区
（七ヶ宿町）</td><td>・特徴ある地形美を持つ長老湖周辺や，防風林が特徴的な集落景観を形成している木地師集落由来の横川地区からなる区域。
（特性１－②，特性２－⑨）</td><td rowspan="2">・長老湖周辺が国定公園に指定されていることから，今後，必要に応じて，関係機関と連携・協力しつつ，自然公園法の許可基準を踏まえ検討を行う。

▲長老湖（七ヶ宿町）</td></tr>
<tr><td colspan="2">
★写真位置</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">区域名</th><th>区域の考え方</th><th>景観形成の考え方</th></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td>七ヶ宿湖・七ヶ宿街道地区
（白石市，七ヶ宿町）</td><td>・貴重な水源地である七ヶ宿湖から，七ヶ宿街道である国道１１３号沿いに点在する集落にかけて形成される七ヶ宿町の中心を担う区域。
（特性１－③，特性３－⑦）</td><td rowspan="2">・県立自然公園として保全・活用が図られる七ヶ宿湖から七ヶ宿町の集落にかけて，連続する景観の保全・形成に向け，景観計画区域の指定による自然景観の保全と沿道集落景観の形成を図る。

▲七ヶ宿湖（七ヶ宿町）</td></tr>
<tr><td colspan="2">
★写真位置</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4</td><td>釜房湖周辺地区
（川崎町）</td><td>・貴重な水源地である釜房湖を中心とした地域。
（特性１－④）</td><td rowspan="2">・湖周辺の樹林地については，自然環境保全地域の指定により一定の環境保全を図るとともに，みちのく杜の湖畔公園周辺については，湖及び周辺の樹林地との一体的な景観形成に向け，景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。

▲釜房湖（川崎町）</td></tr>
<tr><td colspan="2">
★写真位置</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">区域名</th><th>区域の考え方</th><th>景観形成の考え方</th></tr>
<tr><td rowspan="2">5</td><td>川崎町中心部地区
（川崎町）</td><td>・かつての笹谷街道である国道２８６号周辺に広がる防風林が特徴的な沿道の農村集落と，それに連なる川崎町の中心部を担う旧城下町に由来する市街地からなる区域。
（特性２－⑧，特性３－③，３－⑨）</td><td rowspan="2">・国道２８６号から町の中心部にかけて形成されている，川崎町の景観について，その特性を継承できるよう，景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。

▲防風林（川崎町）</td></tr>
<tr><td colspan="2">
★写真位置</td></tr>
<tr><td rowspan="2">6</td><td>丸森町中心部地区
（丸森町）</td><td>・阿武隈川の水運で栄えた丸森町の市街地と，その町場と一体的にかつて利用されてきた阿武隈川沿いを含む区域。
（特性１－⑤，特性３－⑤）</td><td rowspan="2">・仙南地域を代表する水運の町場としての歴史性や阿武隈川との関係性を継承する景観まちづくりのきっかけとして，景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。

▲齋理屋敷（丸森町）</td></tr>
<tr><td colspan="2">
★写真位置</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">区域名</th><th>区域の考え方</th><th>景観形成の考え方</th></tr>
<tr><td rowspan="2">7</td><td>角田市中心部地区
（角田市）</td><td>・城下町に由来し，阿武隈川の水運の中継地として栄えた市街地と，その水運を支えた阿武隈川及び河川敷に整備された桜並木や菜の花等の潤いある空間を含む区域。
（特性１－⑥，特性３－④）</td><td rowspan="2">・角田市の歴史性と阿武隈川とのつながりを再認識するきっかけとして，景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。

▲角田市街地（角田市）</td></tr>
<tr><td colspan="2">
★写真位置</td></tr>
<tr><td rowspan="2">8</td><td>大河原町・柴田町中心部地区
（大河原町，柴田町）</td><td>・交通の要衝として栄えた船岡城下町及び仙南地域を貫く大動脈である奥州街道，それに代わる鉄道や国道沿いに広がる市街地，及び白石川沿いに整備された桜並木が広がる区域。
（特性１－⑦，特性３－②，３－⑧）</td><td rowspan="2">・白石川や街道等，仙南地域の交流の拠点を支えてきた歴史性と，先人たちがつくり出した美しい白石川の風景を継承する景観まちづくりのきっかけとして，景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。

▲一目千本桜（大河原町）

▲一目千本桜と船岡城址公園（柴田町）</td></tr>
<tr><td colspan="2">
★写真位置</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">区域名</th><th>区域の考え方</th><th>景観形成の考え方</th></tr>
<tr><td rowspan="2">9</td><td>北原尾地区
（蔵王町）</td><td>・蔵王山麓の扇状地形と高原性の気候風土を活かし，酪農地帯として開拓された区域。
（特性２－①）</td><td rowspan="2">・国定公園に指定され，貴重な自然環境の保全と農の営みの両立が図られており，引き続き，自然公園としての保全・活用を図りつつ，今後，必要に応じて，関係機関と連携・協力しつつ，自然公園法の許可基準を踏まえ検討を行う。

▲北原尾（蔵王町）</td></tr>
<tr><td colspan="2">
★写真位置</td></tr>
<tr><td rowspan="2">10</td><td>遠刈田温泉・農村集落地区
（蔵王町）</td><td>・蔵王詣での拠点を担った遠刈田温泉の町場及び蔵王詣でにおける重要なルートを担ってきた県道白石上山線沿いの市街地及び松川沿いの段丘地を中心に広がる農村集落からなる区域。
（特性２－②，２－⑦）</td><td rowspan="2">・蔵王町の産業である果樹園栽培や遠刈田温泉の町場にかけて，松川及び県道により連続する蔵王町らしさを活かした景観形成にむけ，景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。

▲遠刈田温泉（蔵王町）</td></tr>
<tr><td colspan="2">
★写真位置</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">区域名</th><th>区域の考え方</th><th>景観形成の考え方</th></tr>
<tr><td rowspan="2">11</td><td>高倉川農村集落地区（角田市）</td><td>・高倉川を軸として広がる周辺の水田，農村集落，里山までを包括し，高蔵寺や高倉農村公園を含んだ一体的な農の営みが見られる区域。（特性２－③）</td><td rowspan="2">・高倉川を中心に広がる穏やかな農村・里山景観と，その中で行われている地域住民による取組がつくり出す景観について，これからも大切に守られ，それぞれがさらに魅力的なものとなるような景観まちづくりのきっかけとなるよう，景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。

▲高倉農村公園（角田市）</td></tr>
<tr><td colspan="2">
★写真位置</td></tr>
<tr><td rowspan="2">12</td><td>小原温泉地区（白石市）</td><td>・湯治場由来の温泉地とそれを取り巻く木々からなる区域。（特性２－④）</td><td rowspan="2">・県立自然公園に指定されていることを踏まえ，自然公園と連携した，自然環境の保全と湯治場由来の営みを活かした景観まちづくりのきっかけとして，景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。

▲小原温泉（白石市）</td></tr>
<tr><td colspan="2">
★写真位置</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">区域名</th><th>区域の考え方</th><th>景観形成の考え方</th></tr>
<tr><td rowspan="2">13</td><td>鎌先温泉地区
（白石市）</td><td>・湯治場由来の旅館が立ち並ぶ温泉地とそれを取り巻く木々からなる区域。
（特性２－⑤）</td><td rowspan="2">・県立自然公園に指定されていることを踏まえ，自然公園と連携した，自然環境の保全と湯治場由来の営みを活かした景観まちづくりのきっかけとして，景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。

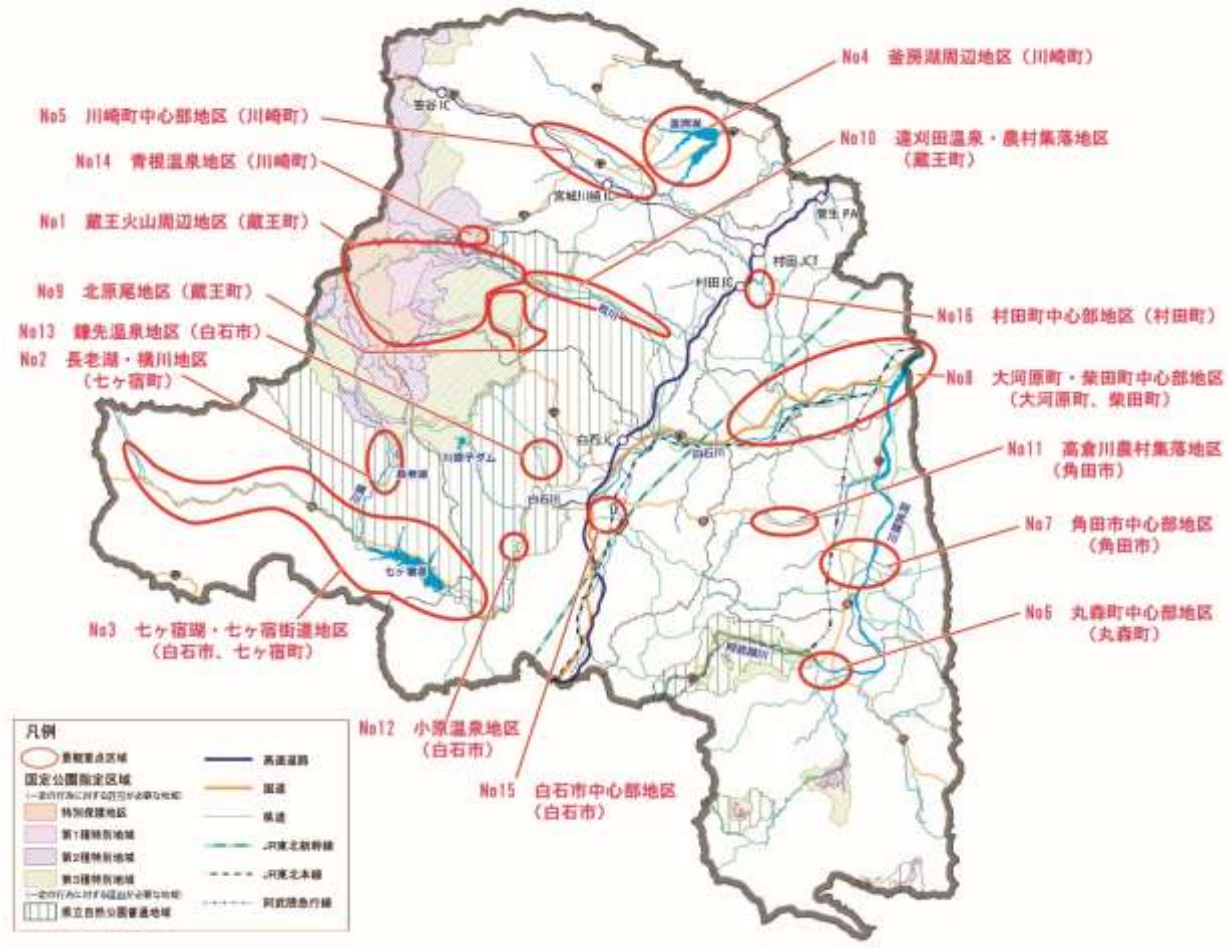
▲鎌先温泉（白石市）</td></tr>
<tr><td colspan="2">
★写真位置</td></tr>
<tr><td rowspan="2">14</td><td>青根温泉地区
（川崎町）</td><td>・川崎町の南側，蔵王山麓の丘陵地と一体となった温泉地の区域。
（特性２－⑥）</td><td rowspan="2">・国定公園に指定され，貴重な自然環境の保全と湯治場に由来する温泉地の営みの両立が図られており，引き続き，自然公園としての保全・活用を図りつつ，今後，必要に応じて，関係機関と連携・協力しつつ，自然公園法の許可基準を踏まえ検討を行う。

▲青根温泉（川崎町）</td></tr>
<tr><td colspan="2">
★写真位置</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">区域名</th><th>区域の考え方</th><th>景観形成の考え方</th></tr>
<tr><td rowspan="2">15</td><td>白石市中心部地区（白石市）</td><td>・中世からの要衝であった白石城下町を中心に，仙南地域の大動脈である奥州街道の白石宿，また近代に入り鉄道網の整備に合わせ新たな玄関口を担う白石駅周辺にかけた，白石市の中心を担う市街地の区域。
（特性３－①，３－⑧）</td><td rowspan="2">・仙南地域を代表する城下町としての歴史性や，かつての奥州街道の白石宿の名残を継承する，白石市の中心を担う市街地における景観まちづくりのきっかけとして，景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。

▲白石城（白石市）</td></tr>
<tr><td colspan="2">
★写真位置</td></tr>
<tr><td rowspan="2">16</td><td>村田町中心部地区（村田町）</td><td>・重要伝統的建造物群保存地区と，その周囲に広がる現在の中心を担う市街地にかけた区域。
（特性３－⑥）</td><td rowspan="2">・商家町の歴史を伝える中心部では，重要伝統的建造物群保存地区の選定により，建造物を中心に景観の保全・形成が行われており，その町の歴史性を象徴する中心部とともに，一体的に形成されている村田町の市街地において，村田町らしさを活かした景観まちづくりのきっかけとして，景観計画区域の指定による景観の保全・形成を図る。

▲村田町村田伝統的建造物群保存地区（村田町）</td></tr>
<tr><td colspan="2">
★写真位置</td></tr>
</table>


No4　釜房湖周辺地区（川崎町）
No5　川崎町中心部地区（川崎町）
No10　遠刈田温泉・農村集落地区
（蔵王町）
No14　青根温泉地区（川崎町）
No1　蔵王火山周辺地区（蔵王町）
No9　北原尾地区（蔵王町）
No16　村田町中心部地区（村田町）
No13　鎌先温泉地区（白石市）
No2　長老湖・横川地区
（七ヶ宿町）
No8　大河原町・柴田町中心部地区
（大河原町、柴田町）
No11　高倉川農村集落地区
（角田市）
No7　角田市中心部地区
（角田市）
No6　丸森町中心部地区
（丸森町）
No3　七ヶ宿湖・七ヶ宿街道地区
（白石市、七ヶ宿町）
No12　小原温泉地区
（白石市）
No15　白石市中心部地区
（白石市）
凡例
景観重点区域
国定公園指定区域
特別保護地区
第1種特別地域
第2種特別地域
第3種特別地域
県立自然公園普通地域
高速道路
国道
鉄道
JR東北新幹線
JR東北本線
阿武隈急行線

▲景観重点区域の位置図

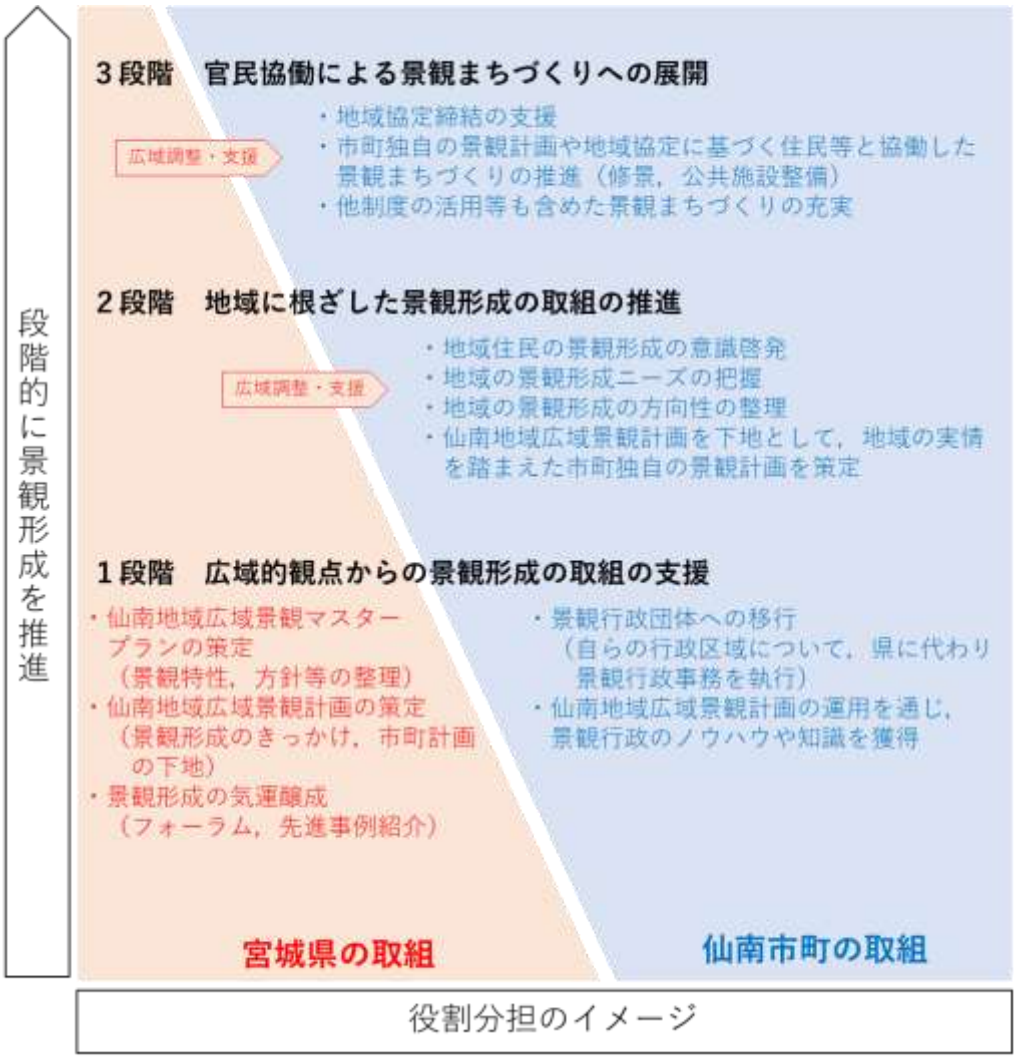
第４章　今後の進め方について

１．県と市町の役割分担の考え方

景観法では，景観行政の主体として，「良好な景観の形成は，居住環境の向上等住民の生活に密接に関係する課題であること，地域の特色に応じたきめ細かな規制誘導方策が有効であることから，基礎的自治体である市町村が中心的な役割を担うことが望ましい」とされ，本来は市町村が景観行政団体となり，官民が協力・連携した景観形成に取り組むことが望ましいとされています。

一方で，仙南地域のような広域で一体的な景観を有している場合には，広域行政の主体である都道府県が市町村間を調整しつつ，景観形成に連携して取り組むことが求められています。

このため，仙南地域では，県と市町の役割分担の下，県が策定する広域景観計画を広域的な景観形成の取組をきっかけにし，その後，県が継続的に広域調整・支援を図りながら，市町がより充実した魅力ある地域の景観づくりに取り組んでいくといった段階的な景観形成により，良好な景観の形成を図るものとします。



▲段階的な景観形成のイメージ及び県と市町の役割分担

県の役割（広域景観計画）

●広域的な観点からの景観形成の取組のきっかけづくり

“仙南地域らしさ”を象徴する景観重点区域のうち，他法令による有効な取組を行っていない区域を対象に，景観法に基づく「広域景観計画」を策定し，区域の景観特性を活かした景観まちづくりの下地づくりを行う（取組の機会創出）。

●緩やかな基準から景観誘導を開始

取組の第一歩として，現在の景観に影響を及ぼす一定規模以上の行為に対し，景観形成への配慮・協力を求めることから始め，緩やかに景観形成への意識づくりへつなげる。

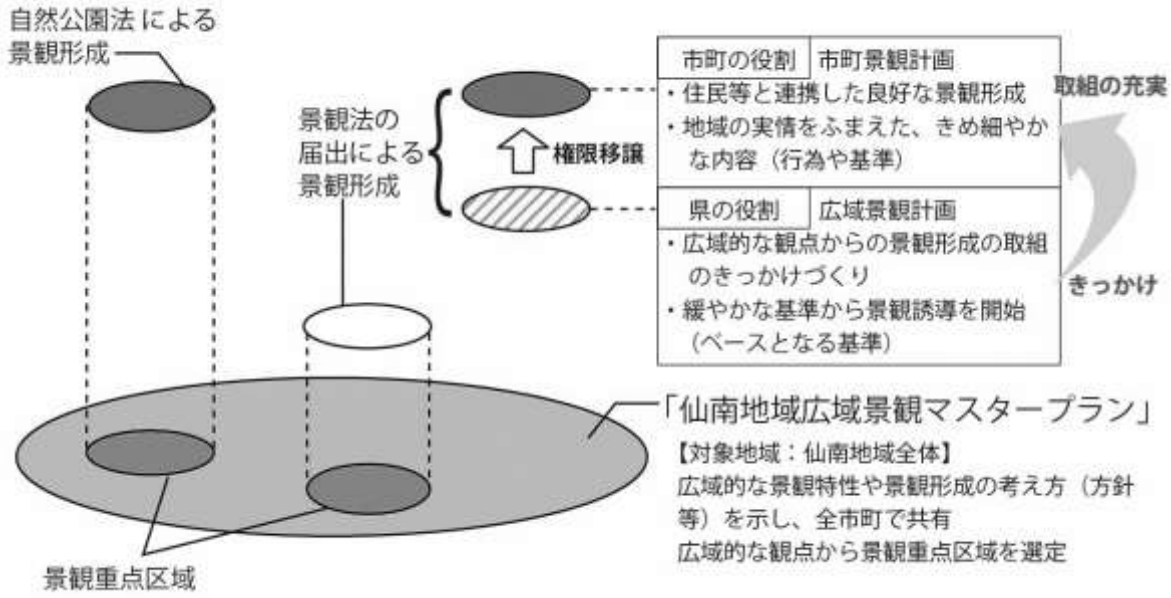
市町の役割（市町景観計画）

●住民等と連携した良好な景観形成

景観行政の主体として景観行政団体となり，地域住民・事業者とともに議論を重ねる。

●地域の実情を踏まえた，きめ細かな行為や基準

「広域景観計画」を下地に，各地区の実情に応じた届出対象規模やきめ細かな景観形成基準を検討し，景観を通した魅力ある地域のまちづくりへとつなげる。



▲景観重点区域の景観形成のイメージ及び県と市町の役割分担